志を引き継ぐ



2010年
全日本実業団少林寺拳法連盟
設立40周年記念

不惑の年のあらたな誓い

～全日本実業団少林寺拳法連盟の設立40周年によせて～



中央労働金庫　理事長
全日本・関東実業団少林寺拳法連盟
会長　渡邊 信

全日本実業団少林寺拳法連盟が設立40周年を迎えましたこと誠に慶賀に堪えません。この道のりは決して平坦なものではなかったと想像に難くないところです。今日まで実業団少林寺拳法連盟を支え発展させてこられた諸氏の貢献に深甚なる敬意を表する次第です。

少林寺拳法が宗道臣開祖によって香川県多度津の地に創設されたのが1947年、全国的発展のなかで開祖の意を受け関東実業団少林寺拳法連盟が結成されたのが1970年、ここを拠点として同年、全日本実業団少林寺拳法連盟が誕生し、以後、関西・東海の実業団少林寺拳法連盟が結成されていきました。設立の意義は、人々の働く環境の中で、ひいては実業界・経済界に「自己確立・自他共楽・理想境実現」の理念を普及していくことにありました。

この40年間、世界も日本もそして自然環境にも大きな変化がありました。一昨年のリーマンショックを振り返るまでもなく、私たちを取り巻く状況はむしろ混沌の度合いを強めているといえましょう。人類の英知によって必ずこの苦難は克服しなければなりませんが、人づくりを本義とし、平和で豊かな社会の建設を目指す少林寺拳法もいま改めて創設の精神の発揮が求められているといえましょう。

アメリカ先住民の伝承に「自然は子孫からの預かり物」という言葉があるそうです。私たちは、子孫から預かった地球を大切にし、持続可能な福祉社会を築くためにも「知命の年」を迎える2020年までには、関東・関西・東海のみならず、職域少林寺拳法部の母胎となる各地域実業団連盟の結成に努め、輝かしい実業団少林寺拳法連盟の半世紀を迎えたいと思います。

「井戸を掘った諸先輩への感謝の気持ちを忘れることなく、新たな峰を目指す清々しさ」をもって新しい時代を拓いていきましょう。

ともに日々歩まん！　ともにいい汗を流しましょう！

志を引き継ぐ

～全日本実業団少林寺拳法連盟
設立40周年を迎え～



全日本・関東実業団少林寺拳法連盟
理事長　根本武美

今から40年前の1970年７月、全日本実業団少林寺拳法連盟は開祖の命を受けて産声を上げ、以来日本経済の成長と足並みを揃えるかのように発展してまいりました。

40年という歴史を刻むことができたのも、歴代の会長・理事長をはじめ、その間に在籍された拳士の方々の地道な努力、また、たくさんの方々の応援があったからこそ、と実感しております。諸先輩方に敬意を表すとともに、お世話になりました皆様には、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

40周年を迎えるにあたり、一連の記念事業のテーマを、「志を引き継ぐ」といたしました。

来年は開祖生誕100年。今こそ開祖の志について拳士一人ひとりが考える大切な時である、との思い。また40周年を節目として初心に返り、次の世代へ「志を引き継ぐ」決意と結束を確かめあおう、という思いがこのテーマに込められています。

さて、ようやく回復の兆しが見え始めた日本経済ですが、リーマンショック後の金融危機の影響は、未だ大きな爪跡として残ったままです。 そのうえ経済のグローバル化が叫ばれ、変化のスピードは加速の一途を辿り、先行きの不透明さは増すばかりです。実業団拳士を取り巻く環境は依然厳しいと言わざるを得ません。このような社会情勢の中で「志を引き継ぐ」ことは、試練とさえ言えます。しかし見方を変えれば、新しいことに挑戦する絶好の機会かもしれません。一人ひとりがこの逆境をチャンスとして捉え、その努力と熱き志で、希望ある将来に繋げていただきたいと思います。

部長の皆さん、志を引き継でくれる後任の若い部長を今から育ててください。 その若い芽が、次の時代の実業団連盟を更に活性化させてくれることでしょう。何卒一念発起をお願いします。また、若い拳士の皆さんは、部長を助けながら、自らの可能性について前向きに考え、大きな夢を描いてみてください。部長になることも、もちろん選択肢の一つです。弟子を持ち、先頭に立って前進し続けることは、とても大変ですが反面やりがいのある仕事でもあります。人間関係の幅が広がり、飛躍的に視野が広がり、自分を著しく成長させてくれる糧となります。ですから具体的な夢の一つに加えていただければ、と思います。

全日本実業団少林寺拳法連盟では、今年元旦に新たにホームページを立ち上げました。まだまだ掲載内容は多いとは言えませんが、今後の皆さんの活発な活動が内容の濃いホームページに育ててくれるものと信じています。

全国の実業団支部同士が一堂に会す機会はなかなか実現できませんが、インターネット上でなら距離の壁を軽々と越えてコミュニケーションをとることも可能です。ネットも補助手段として活用し、お互いに刺激しあい切磋琢磨して、発展普及の足がかりとなることを期待しています。

最後になりましたが、開祖宗道臣の「志」を引き継ぎ、今後益々実業団連盟が発展して、次の50周年、60周年を迎えられるよう、皆様方のご支援とご協力をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。

祝辞



少林寺拳法グループ
総裁　宗 由貴

全日本実業団少林寺拳法連盟が40周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

職域において青少年育成活動を続けてこられた指導者および拳士の皆様に、心から敬意を表し、またご支援ご協力を頂いている関係者の皆様方に、厚くお礼申し上げます。

SHORINJI KEMPO（少林寺拳法）は、1947年、日本において創始者宗道臣（開祖）が、「平和で豊かな社会を築くために、社会で役に立つ人間を育てたい」という志を持ち、創り出した人づくりのシステムです。

この「世界で一つの独自的固有の文化である少林寺拳法」の活動を推進するため、これまでの63年の間にSHORINJI KEMPO UNITY、金剛禅総本山少林寺、少林寺拳法連盟、専門学校禅林学園、少林寺拳法世界連合の５つの団体が組織され、現在では世界34ヶ国に広がりをみせています。

40年前、組織の歴史を辿るように、志を持った方々が、関東実業団連盟に続き、全日本実業団少林寺拳法連盟を設立されました。そして、関係者の皆様が、地道な活動を通し多くの協力者を得て、困難を乗り越えながら、一歩一歩前進してきた結果、今日を迎えられたのだと思います。

社会を取り巻く環境はここ30年で激変し、全日本実業団連盟が設立された40年前と現在とでは、入会者が少林寺拳法に求めるもの、そして少林寺拳法が提供出来るものもどんどん変化しています。

いま社会では、「生命（いのち）」や「人間」という存在が軽んじられ、また価値観の多様化により、さまざまな社会問題が発生し深刻化しています。このような状況下において、人が人間らしく生きてゆくためには“自信”と“他人とのコミュニケーション”と“役立ち感”が重要なキーワードではないでしょうか。そして少林寺拳法を通して「自信と勇気」という生きる力を養い、社会に貢献できる人材育成をする目的は、より価値が大きくなってきました。

来年2011年は、開祖生誕100年の記念すべき年です。

少林寺拳法グループ各団体は、社会に必要とされる人を育てる教育団体として、それぞれの地域の皆様方とのコラボレーションによって、「生きる力」を養う環境づくりを目指しリニューアルします。

創始者宗道臣の志を受け継ぎ、少林寺拳法の普及活動に邁進してこられた指導者の皆様を中心に、今後も職域に密着した活動を展開し、50周年、60周年……と素晴らしい歴史を積み重ねていかれますことを期待しております。

合　掌



財団法人少林寺拳法連盟

会長　新井庸弘

この度、全日本実業団少林寺拳法連盟が設立40周年を迎えられますことを心よりお祝い申し上げ、永年にわたり少林寺拳法の普及と指導にご尽力された歴代理事長を始めとする拳士各位に敬意を表しますと共に、関係各位のご支援に衷心より御礼申し上げます。

少林寺拳法は、敗戦直後の混乱した日本の状況を見た 創始者 宗 道臣（開祖）（1911～1980）が、志のある青少年を集め、道を説いて正義感を引き出し、勇気と自信と行動力を養わせて、祖国復興に役立つ真のリーダーを育成しようと決心して、1947年に創始いたしました。

そうした開祖の志を受けてそれぞれの職場でリーダー育成に取り組んでいた指導者の方々が更なる活動の充実を目指して力を合わせて、1970年に全日本実業団少林寺拳法連盟が設立されました。以来40年間、周囲から多大なるご理解とご協力を受けながら、職場における「人づくり」の道を続けてこられました。

現在、百年に一度といわれた経済危機の影響に加えて、価値観の多様化がもたらす個人主義的世相により、社会不安は一層増すばかりで進むべき方向が定まりにくい情勢になっていると思います。しかし、こうした社会状況だからこそ、「半ばは自己の幸せを、半ばは他人の幸せを」考えて、信念をもって行動できる人を、また他人と協力し合うことができる人が社会に必要とされているのではないでしょうか。

皆様方におかれましては、今後とも自信と信念と誇りをもってこの道の修行に励み、それぞれの立場おいてリーダーシップを発揮し、職場においても家庭においても充実した日々を過ごされますことを期待しております。

最後になりましたが、全日本実業団少林寺拳法連盟のさらなる発展と、皆さま方のますますのご活躍をご祈念申し上げ祝辞とさせていただきます。

合　掌

目　次

2　発刊の辞

4　祝辞

7　あらはん達40年の歩み

17　全日本実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図、歴代会長／理事長一覧
歴代理事長コメント
支部紹介

23　関東実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図、歴代会長／理事長一覧
歴代理事長コメント
関東実業団連盟のあゆみ
支部紹介

35　関西実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図、歴代会長／理事長一覧
歴代理事長コメント
関西実業団連盟のあゆみ
支部紹介

45　東海実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図、歴代会長／理事長一覧
歴代理事長コメント
東海実業団連盟のあゆみ
支部紹介

52　OBからのメッセージ

58　編集後記

表紙題字　游墨斎
表 紙 絵　明竜
挿 し 絵　みん

全日本実業団少林寺拳法連盟
あらはん達40年の歩み

１．誕生期

１－１．松木よ、関東に実業団の連盟を組織せよ

戦後間もない1947(昭和22)年、四国の香川県で産声を上げた少林寺拳法は、日本経済の復興と歩調をあわせ急速に全国へと拡がっていった。その拡がりは野生の草の根のごとく広く細やかで、地域道院だけでなく、民間企業や学校や中央官庁など日本社会の様々な層に少林寺拳法のDNAを運んでいった。

少林寺拳法の開創から20年。松木長實に雇用促進事業団支部を認可するにあたり、開祖は松木の師でもあった内山滋関東地区連合会(後の関東連絡協議会)理事長を通じて松木に指示をした。「雇用促進事業団支部設立を契機に、関東に実業団連盟を組織せよ」。

時に、日本がいざなぎ景気の活気につつまれている1969年９月のことであった。

２．成長期

２－１．藤川さん、受けてもらえんじゃろか

開祖の命を受けた松木は、ただちに雇用促進事業団支部を中心に、関東実業団連盟結成に向けて始動した。

年が明けた1970年１月には、趣意書、規約等の草案を作成し、関東地区支部長会議を招集。同年の４月には、関東地区連合会のバックアップを受けて、関東実業団連盟として正式に本部登録を行い、その第一歩を踏み出した。

初代会長は、愛知県庁の給仕から身を起こし、会社社長ののちに参議院議員にまで昇りつめた立志伝中の人、藤川一秋(当時トピー工業会長)だった。藤川の会長就任の裏には、同郷出身で、長年にわたり少林寺拳法を支援してきた自民党の実力者、江﨑真澄の推薦があった。

「藤川さん、受けてもらえんじゃろか」

「江﨑さんの頼みとあらば断れませんな」

初期の関東実業団連盟参加支部は、まだまだ少なく以下のとおりだった。

雇用促進事業団、防衛庁、富士重工三鷹、東京重機、東京応化、首都公団、国会、三鷹市役所、農林省、秦野(リンレイ)、大蔵省印刷局の11支部。

日本中が大阪万博EXPO'70に沸きかえっていた頃だった。

２－２．長期的展望にたち、全日本実業団連盟として発足せよ

実業団連盟の設立を喜んだ開祖だったが、開祖の目は常に一歩先を見ていた。

指導者特別講習会で本部に帰った松木は、開祖に謁見し関東実業団連盟発足の状況について経過報告を行った。

優しい目でそれを聞いていた開祖だったが、最後に松木に言った。

「近い将来、必ず全国組織が必要になる。長期的展望にたち、全日本実業団連盟として発足せよ。そして、実務は関東実業団がこれを兼務してほしい」。

松木はただちに関東実業団連盟総会を招集し、開祖の思いを伝えた。

この総会において松木が改めて理事長に選出され、関東実業団連盟が全日本実業団連盟を兼務することが可決された。

まだ、関東実業団連盟の活動さえままならぬ頃ではあったが、将来を見据えるあらはん達の熱き思いがそこにはたぎっていた。

1970年。この年の10月、日本武道館で行われた少林寺拳法全国大会に初めて「実業団の部」が設けられた。実業団連盟所属拳士の出場枠のことである。周囲から連盟として認知された証と言えた。

２－３．総力を挙げて後援するからお受けなさい

少林寺拳法全国大会、実業団枠は、実業団支部拳士の意気を高揚させた。

「よし、やろう」「しかし、一体何をしたらいいんだ」。大きすぎる自由は、その可能性と裏腹に大きすぎる課題となってあらはん達の前に立ちはだかった。

一年弱、暗中模索の日々が続いた。そして翌年

８月、実業団連盟主催の初のイベントが開催された。中野益臣、松田欣一郎の両名を講師に迎えての関東地区合同練習会。新宿区立体育館(東京)に十数支部から拳士が集まり、合同練習会は盛会のうちに幕を引いた。

その余勢を駆って翌1972年12月に全日本実業団連盟関東地区演武会(会場：新宿区立体育館)が企画された。

しかし、パンフレットの印刷も完了し、大会を目前に控えた時点で、参加不能支部が続出。半年の準備期間を経たにも関わらず、一週間前になって、止むなく中止の決断をせざるをえなかった。

この一件はあらはん自身に、意識の甘さ、底の浅さをまざまざと見せつけた事態となった。

悔しさと情けなさを噛みしめながら、藤川会長のもとを訪れる松木。藤川は松木と実業団連盟に対し、さらに高いハードルを課す決断をくだした。

「松木さん、実業団連盟で全国大会をやってみなよ。やる前からできないなんて決めつけちゃいけないよ」。

戸惑う松木、しかし同行した内山関東地区連合会理事長がそっと言った。

「総力を挙げて後援するからお受けなさい」。

もう腹を決めるしかなかった。全国大会を成功させるための決意と、その重責に対する不安が混沌と入り混じる思いを胸に松木は帰途についた。

２－４．私は前進する

年が明けて1973年１月。まだ松飾りもとれぬうちに全国大会実行委員会が発足。大会は６月24日、東京・日比谷公会堂に決定。

２月の総会では、1973年度全日本実業団連盟(兼関東実業団連盟)役員を選出。全国大会に向けて万全の執行体制を確立した。

実業団連盟旗及び会長杯の作成と並行し、大会に実業団主催の特色を出すためあらはん達は知恵を絞った。

大会まではわずか半年しかない。スケジュールの作成、資金調達計画、各関係機関との連絡、パンフレット作成……消化しなければならない問題が山積し、乗り越えども乗り越えども、新たな課題があらはん達の行く手をふさいだ。

実行委員達は、職業上の時間的制約と与えられた任務との板ばさみに歯を食いしばって堪えながら切り抜けた。挫折感と悲壮感が次々に去来する中、あらはん達を支えたのは「初めての全国実業団大会を、自分たちの手で何が何でも成功に導くんだ」という熱い思いと使命感だった。全国の職域支部が総力を結集して大会の準備を進めた。

大会を２カ月後に控えた４月の半ば、江崎真澄日本少林寺拳法振興議員連盟会長(当時、自治大臣・国家公安委員長)から、大会に中国大使館を招待するように提言される。

当時は、田中角栄元首相による日中国交正常化に関する「共同声明」の調印が終わったばかり。実質的な国交は希薄で、右翼団体が気勢をあげ、世情は騒然としていた。実行委員からの反発は大きかった。しかし、松木は言った。「たとえ困難があってもお引き受けするのが、実業団連盟の責務であると思う。無理を承知であるが、当たって砕けろだ。私は前進する、行動を共にできない人はやむをえない」。

すると全員一斉に「松木さん、わかった。われわれは運命共同体だ。やろう！」。

そうして、松木はじめ幹部は内山滋関東地区連合会理事長と何度も中国大使館へ足を運んだ。

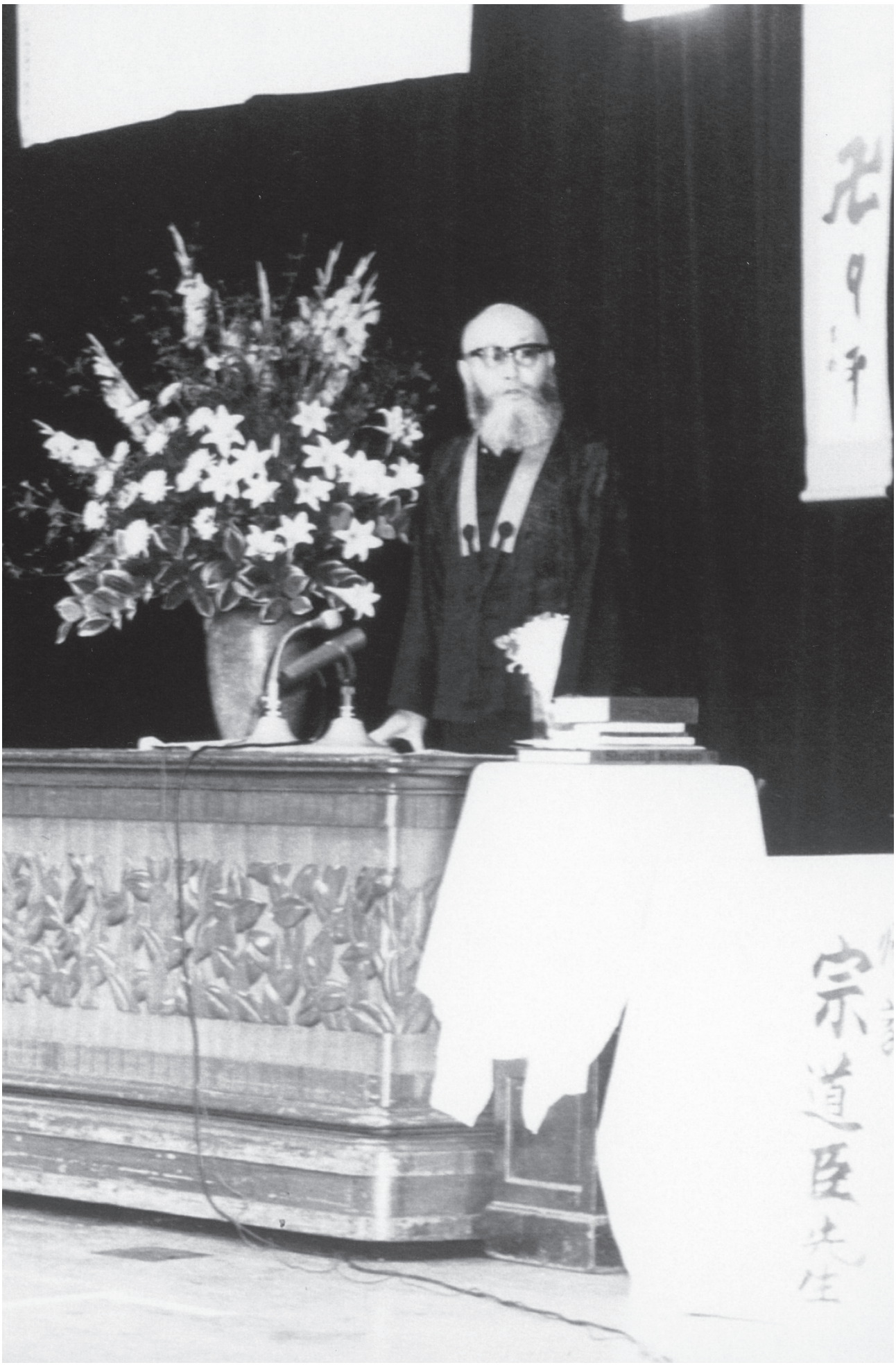
綿密な打ち合わせを繰り返すうちに、お互いの信頼感が深まり、絶対不可能と思われた中国大使館の招待が具体化していく。しかし話が具体化していけばいくほど、重圧は耐えがたいものへと成長していった。失敗は許されない、もう後戻りもできない。あらはん達はその責任の重さにふるえ、緊張におののいた。大会実行委員長松木長實は当時をふり返ってこう語る。

「あの頃は、暗闇の中を手さぐりで歩いているようだった」。

２－５．私たちは誇りをもって語り継いでいきたい

大会当日は、前日までのぐずついた空はからりと晴れ上がり、日比谷公会堂周辺は早朝から関係者によって少林寺拳法一色に塗りつぶされた。

大会は、実業団連盟主催の特色を強調するため、従来の競技主体の大会とは一線を画し、来場者に少林寺拳法の本質を理解してもらうことに主眼をおき、管長先生(当時は開祖をそう呼んだ)の法話を中心に据えるという趣向がこらされた。大会の中で管長法話が行われたのは、少林寺拳法の歴史の中で、この時が初めての試みだった。


宗道臣先生








第1回 全日本少林寺拳法全国実業団連盟演武大会





また、中国大使館から李連慶参事官外４名の臨席も実現、これは少林寺拳法と中国の友好交流の幕開けであるとともに、日本と中国の友好を結ぶエポックメイキングな出来事として各方面から強い関心が寄せられた。大会の模様はNHK、フジテレビでも放映され大きな反響を呼んだ。

なお、当大会成功の背景には故・内山滋を大会委員長に迎え、実行委員やスタッフには実業団連盟の人間だけではなく、現在の少林寺拳法界のお歴々の参画や協力があった。

まさに、「あらゆる分野のあらゆる階層に、少林寺拳法の考えを持った人が増えれば、この世はもっとよくなる」という開祖の言葉を具現化した大会となった。

ささやかな達成感と大いなる虚脱感の中で、実行委員たちは誰ともなくつぶやいた。

「今だから愁眉をひらいて言える。私たちは誇りをもってこの大会のことを語り継いでいきたい」。

２－６．　私の郷里で開催してもらえまいか

第１回全国実業団連盟演武大会の翌1974年７月。藤川一秋会長が参議院議員に当選（愛知県）。また、同年12月には少林寺拳法世界連合会（WSKO）結成記念大会が日本武道館で開催され、実業団連盟も参加した。翌年の第２回となる全国実業団大会の企画が水面下で進みだしたのもこの頃だった。

前回の第１回大会では、実業団連盟主催大会の特色として「法話」導入が行われた。

第２回目となる次の大会ではどうするかという声が上がり、「前回のノウハウを生かして今回も法話を」という声と、「前回と同じでは面白くないから新しいことを」という意見に別れた。

会合を重ねるうち「弁論の部」を設けてはどうかという意見が出た。それまで少林寺拳法の大会で弁論の部が設けられたことはなかった。新たな挑戦としてこの意見が採用された。

開催地の検討も進められた。実行委員の脳裏には以前藤川会長から聞いた一言があった。「私の郷里で開催してもらえまいか」。

静かな語り口のなかに、強い思いを感じた。

東海実業団連盟がまだ無い頃の話である。あらはん達の間で侃々諤々の議論がつくされた。

しかし、最後は実業団連盟に多大な支援をしてきてくれた藤川会長の熱に応えようということになった。

一旦決まれば、全員が同じゴールを見据えた。「第２回大会は東海地区でやろう」。

２－７．その道に邁進している

第１回全国実業団連盟演武大会から２年後の1975年の10月。東海地方連合会の全面的な協賛を得て、愛知県名古屋の地において、第２回目となる「1975年実業団連盟全国大会」が開催された。

開祖不在となった今大会だったが、雨上がりの名古屋市愛知県体育館に約１万人の観客が集まり、藤川大会会長をはじめ中京地区の官界・政界・財界の著名人多数をお迎えし盛大に開催された。

今回の目玉企画となる弁論の部は、少林寺拳法の歴史始まって以来の取り組みだったこともあり、ノウハウを持つものは皆無だった。

それでも全国から予選を勝ち進んできた４名の拳士達の熱弁によって内容の濃い企画となった。紅一点の新藤由美子による「女性として日常生活のあらゆる障害をのりこえ、現在は何よりも幸福運動を生きがいとしてその道に邁進している」という発表をはじめ、どの発表も甲乙つけがたい内容と言えた。

この大会が契機となって、東海地区実業団連盟（現在の東海実業団少林寺拳法連盟）が発足した。

初代理事長に山下咲雄（トヨタ自動車支部長）、副理事長に進藤勝則（日本電装本社支部長）が就任し、加盟支部はトヨタ拳法部（当時）、トヨタ上郷、トヨタ堤、日本電装本社、日本電装安城、日本電装西尾、日本電装高棚、大同製鋼、アイシンワーナー、一宮市役所、一宮警察署、名古屋市役所、本田技研鈴鹿、松下電器鈴鹿の15支部だった。

２－８．最も固い実業団連盟をつくろうじゃないか

1970年の全日本・関東実業団連盟に続き、1975年の東海地区実業団連盟の設立。高度経済成長の追い風にのって実業団連盟の躍進が続いた。

「鉄は国家なり、という言葉がある。鉄の結束で日本を支える最も固い実業団連盟を作ろうじゃないか」。

鉄鋼業に従事するあらはん達が立ちあがった。

愛知での全国実業団大会の翌1976年６月、関西地区では鉄鋼支部連合会が発足して、全国実業団組織化への体制が着実に固められてきた。構成支部は、神戸製鋼神戸、神戸製鋼加古川、日本鋼管福山、新日本製鉄八幡、住友金属鹿島、住友金属

和歌山、川崎製鉄水島の７支部。

その年の10月に、鉄鋼支部連合会結成記念演武会が神戸製鋼中央体育館で開催されている。

２－９．大阪に、３つ目の地域実業団連盟をつくり結束を図ってくれんか

第２回実業団全国大会の翌年となる1976年暮、関西に新たな動きがあった。

神戸製鋼加古川支部長の松本一男に開祖から命が下ったのだ。

「全国実業団少林寺拳法連盟の組織と地域支部の結束を図ってくれんか」

大阪に３つ目の地域実業団連盟をつくれという指示だった。

松本は翌年４月には関西地区で自衛隊を含む43の支部を集め、連合会結成に向けて始動した。

松本が初代理事長に就任し、10月には松下電器枚方体育館で結成記念大会が開催された。

関西地区での連合会結成大会の成功を受け、松木全日本実業団理事長は「次の実業団全国大会は、関西で開催してもらいたい」と要請した。

翌1978年４月、組織名称を関西実業団少林寺拳法連合会とし、理事長は勤務の都合で松本から小笠原國勝（住金和歌山支部長）にバトンタッチ。

その小笠原を中心に関西実業団連合会は、５月から早速実業団の第３回大会の準備に取り掛かった。

1979年３月に東京で関東実業団連盟、関西実業団連合会、東海実業団連盟の代表会議が行われ、全日本実業団連盟役員を選出した。それまで、役員はすべて関東実業団連盟が兼務していたが、ここで初めて３地区代表による全日本実業団連盟運営体勢が整った。

理事長：松木長實（労働省）

副理事長：安在孝夫（気象庁）、山下咲雄（トヨタ自動車）、小笠原國勝（住友金属和歌山）

２－10．よくここまでやった。君も成長したな

関西初となる実業団大会のため、２年を掛け準備は周到に行われた。

全国110の実業団支部長を纏め上げることにあらはん達は苦戦した。北は北海道から南は九州まで、総ての職域支部を７、８のブロックに分けて、密に連絡を取り合うことで意識を高めた。また、鉄鋼連盟の協力を仰ぎ、大手鉄鋼５社から数百万単位の資金援助を得ることができた。こう書くといとも簡単に資金が集まったようだが、その裏の苦労は並大抵ではない。協賛金関係で大企業の重役に呼びつけられて叱られたことも度々あったという。小笠原は当時を振り返る。

「何をするにも先立つものは金であり、予算立てと協賛金の下案が出来た段階で、松下電器の小川鍛先生にその説明とお願いに行くべく先生のご自宅に電話すると、『君はアポも取らず直接家に電話するとはどういう事か？』と当時何も知らない青二才の私はこの経験を通して、上層部との付き合い方も勉強させて貰ったものだ」。

大会パンフレットにも工夫を凝らし、後で読み返しても勉強になる資料文献にしようと検討を重ね、「日中民間外交の先端をゆく少林寺拳法」という年譜付きの紹介記事や、他誌には見られない論文などを掲載した。このパンフレットは後に開祖からお褒めの言葉をもらうほどの出来だった。

「この間、実業団大会がありました。すばらしいパンフレットができた。 ～中略～　私が呼びかけたこの金剛禅運動という、一種の世直し運動も、もう完全に根がおりましたね。こういうパンフレットとか、各地から手紙とか送ってくれるんで、それを見て確信が持てるようになった。私が言うことをまとめて、私よりももっといい表現で伝えようという人がどんどん出てきたということだ」（1979年11月定例昇格での法話）

こうした努力を積み重ね、1979年11月　大阪・枚方市松下電器体育館に全国160支部から約500人の拳士と、5000人を超す観客、それに政財界からも多くの来賓を迎えて第３回実業団全国大会が開催された。

開祖は病を押しながらも壇上で熱弁をふるった。開祖遷化の前年であり、これが開祖・宗道臣が臨席した最後の大会となった。

「若干32歳前後の私には涙ながらに前に向いて進むしか方法はなかった。しかし、関西地区の実業団の支部長達が泣き言一つ言わず、それぞれが実行委員長になったつもりで各々の役目を果たしてくれた事がこんなにも盛大な実業団全国大会の成功につながったと思っています。また、この大会の成功させるために、仕事はクビになるかも知れない状態の中で、それをおくびにも出さず夜昼問わず頑張ったことを今思えば、若さは貴重なものだとつくづく思う。私の出身は土佐の高知ですが、

坂本龍馬も20代から30前半で短いながらもの凄い動きをされている。若い時に燃える事は周りも動かすことが出来るものだと思いました。お陰で我が妻には迷惑の掛けっぱなし、今もって頭が下がるばかりですが」。

準備の２年間、毎月本部に帰っては開祖から叱られ続けた小笠原だったが、大会終了後のレセプションでは、開祖から次のように褒められたという。

「よくここまでやった。君も成長したな」



３．隆盛期

３－１．　歩いたところに道はできる

1973年の「第１回全国実業団連盟演武大会」、愛知での「1975年実業団連盟全国大会」、そして1979年大阪での「第３回実業団全国大会」とすべての名称が異なっているが、いずれも全日本実業団連盟が主催した全国大会あり、どの大会も連盟の活躍を軌道に乗せる大切なステップであった。実際各地で実業団大会を開催することで、それをきっかけとしてその地に連盟を設立していくという戦略が見てとれる。

日本経済が隆盛を極めた80年代。実業団連盟も歩調を合わせて隆盛を極めた。全国の実業団支部間の連絡系統も整い、各支部における少林寺拳法の普及活動にも活気が出てきた。

80年代初頭、北海道地区に８支部。東北地区に２支部、関東地区36支部、静岡地区３支部、東海地区12支部、北陸地区１支部、関西地区43支部、中国地区11支部、四国地区９支部、九州地区13支部、沖縄地区１支部。自衛隊の23支部を含んで、139支部が活動を展開していた。

「歩いたところに道はできる。次はどこで実業団全国大会をやろうか」当時の全日本実業団連盟のあらはん達は、10支部を一つの目安として、次の候補地区を探した。

３－２．５年ぶりにやろうじゃないか

関東・東海・関西実業団連盟につづく４つめの地域実業団連盟の候補として中四国、九州地区が目された。義若道恵(三井造船支部長)が設立に向けて奔走するものの、広い地域での活動を支えられるほどの支部数が集まらなかった。なかなか煮詰まらぬままに、時は経ち、前回の全国大会から４年の歳月が流れた。ますます裾野が拡大していく中、あらはん達はしびれを切らせた。

「５年ぶりにやろうじゃないか」。誰かの問いかけに反対するものはいなかった。皆が賛同した。

前大会から５年後となる84年、「全日本実業団15周年記念大会(第４回全日本実業団大会)」が全国勤労青少年会館「中野サンプラザ」にて開催された。

15周年ということで、競技よりも式典に重点をおいたのがこの大会の特徴。職域支部を代表して「東京都交通局」「トッパンムーア」「習志野自衛隊」の３支部の活動と、隻腕のハンデをものともせず住金鹿島を率いる谷田川支部長の活躍ぶりがスライドで上映され、道院とは一味異なった職域における少林寺拳法普及活動が紹介された。

この時、全国の実業団支部数は175支部、実業団史上最大規模を誇っていた。

1987年４月。設立以来共に歩んできた自衛隊各支部が全日本実業団連盟から分離独立し、全自衛隊連盟を設立した。

以降、全国に広がった実業団支部の活動は地区ごとに分化活性化していくことになる。

４．逆風期

４－１．この悔しさを、絶対バネにしてみせる

80年代の地価高騰の狂乱から90年代に入って世相は一変した。俗に言う「バブル崩壊」である。

日本経済の隆盛と密接な関係にあった職域支部の連合体である実業団連盟は、日本の経済破綻のあおりをまともにくらった。第４の地域実業団連盟の設立も足踏みを余儀なくされたままに、あらはん達は、日本の「失われた10年」に突入し、その後長く吹き荒れる逆風をしのぐことを強いられた。

1994年３月。「日本経済は下火になったが、われわれの心が折れたわけじゃない。25周年は本部で記念大会をやらないか」

全日本、関東、東海、関西の４連盟で話し合い、本部での全日本実業団大会開催を誓いあった。

しかし、1995年の本部鏡開式にて４連盟が緊急会議が開かれた。予定していた本部での全日本実業団連盟25周年記念大会は、宗由貴会長が急遽、中国訪問することとなったために中止と決定。

松木は語る。「今年は本部で25周年記念大会を予定していましたが、中国嵩山少林寺の1500年祭と重なり会長をはじめ役員が不足のため、大変残念でしたが、次の30周年記念大会は盛大にかつ、実業団らしい大会をしようと考えています。それまでは各支部が、職域に『人を生かす少林寺拳法の教え』を広げるよう努め、大会が盛り上がるよう意識を高めていきたいと思います」。

しかし、そう述べる松木こそが一番悔しさを味わっていた。

あらはん達は「この悔しさを、絶対バネにしてみせる」と誓いあった。

４－２．雪辱をはたす

西暦2000年を目前に、97年末には全日本実業団連盟30周年記念大会について、主管する関東実業団連盟が企画案の作成に入った。1999年６月に、全日本実業団連盟30周年記念大会および記念式典の企画委員会が発足した。

実に15年ぶりの全国実業団大会であった。あらはん達の年齢層も上がり若かりし頃のがむしゃらさはない。反面、蓄積された経験とノウハウをフル稼働させて一歩一歩と準備を進めた。あらはん達は５年前の悔しさを忘れてはいなかった。

2000年10月。再び東京・中野で全日本実業団大会が開催された。小雨そぼ降るなかでの開催となったが、十分すぎる充電時間をおいた大会では充実したプログラムが展開された。

本部・川島一浩正範士・志村力大拳士(当時)の招待演武、上田清先生ほか５名による華麗な「錫杖演武」、少林寺拳法連盟公認デモ・チームによる技法紹介、場内を興奮の渦へと巻き込んだ。

第二部となる記念式典は、大会の熱気さめやらぬ中、宗由貴少林寺拳法グループ総裁をお迎えして開催。途中スライド上映された「第一回全国実業団連盟演武大会」の記録映像では多くの拳士が懐かしい開祖の面影に胸を熱くし、安在孝夫関東実業団連盟相談役が語る第１回大会にまつわる裏話に当時を偲んだ。



５．復活期

５－１．あとは頼んだよ

2001年１月、関東実業団連盟臨時総会にて、任期満了に伴う新年度理事長として、谷合孫三郎武蔵村山市役所支部長が承認された。なお、全日本実業団連盟設立以来30年の長きにわたり理事長の任を務めた松木がしりぞき、この時より関東実業団連盟理事長が全日本実業団連盟理事長を兼務することとなった。

しかし、この間実業団各支部は各地区にての活動を中心とし、全日本実業団連盟としては特筆すべき活動はない。

2009年２月、４期８年間にわたり、理事長を務めた谷合の任期満了に伴い、後任理事長として、根本武美JFE千葉部長が就任した。

「根本さん、あとは頼んだよ」。谷合から根本へのバトンタッチは春風のようなさわやかさだったと、後に根本は回想している。

５－２．やるからには１番をとろう

2005年に少林寺拳法のロゴマークが「卍」から「双円」へと変わった。それと並行して様々なブランド戦略や施策が展開されていった。

少林寺拳法グループのブランド戦略「ValueUp」は第一弾として、ニューロゴへの切り替えとそれを保護しながらの立ち上げがあった。第二弾としてホームページ戦略を含む積極広報があった。

2009年後半には各連盟支部に対してホームページ立ち上げの檄が飛んでいた。

根本が言う。

「少林寺拳法の世界にインターネットはそぐわないかもしれない。でも時代の趨勢を見るならば、早い段階から活用しそのメリットを享受すべきではないだろうか。実業団連盟のホームページを立ち上げよう。そしてやるからには１番になろう」。

根本の熱い思いを受け、あらはん達は構想を固め、急ピッチでホームページ構築が進められた。

全日本実業団連盟設立40周年記念の年となる2010年１月１日、全日本実業団連盟ホームページが開設され、連盟本部公認ホームページの第１号となった。

このホームページには全国、関東、関西、東海それぞれの連盟の専用ページや、そこに所属する各部の紹介ページなども用意されていて、各部単独の個人戦ではなく、連盟の総合力をアピールできる構成となっていた。

５－３．来年も集まろうや

40周年記念式典を秋に控えた今年2010年、全国の実業団支部の意識を高めることが必要と感じた根本は、関東、東海、関西だけでなく、全国の実業団支部にも連絡して、５月の本部で行われる部長研修会の夜に全国合同の懇親会を提案した。

前回の全日本イベントから実に10年、その間支部の新設・廃止や、部長の代替わりもあり、連絡を取るのさえ一苦労であった。

それでも、30支部から参加があり、地域の枠を超えた交流を行うことができた。たった一晩とは言え、実際に顔を合わせ、酒を酌み交せる機会はお互いの距離を一気に近づけた。

「坂田さん、来年も集まろうや」

「いいねえ、新見さん。じゃあ、関西からは来年もっと多くの部長に参加してもらいますよ」

40周年の記念式典を秋に控えるこの年、こうした機会を持てた意義は大きい。

５－４．　伝説はこれからも続く

10月９日、全日本実業団連盟設立40周年記念式典が浦安にて開催された。

実業団のあらはん達の伝説はこれからも続く。そして主役を演じるのは、あなたかもしれない。

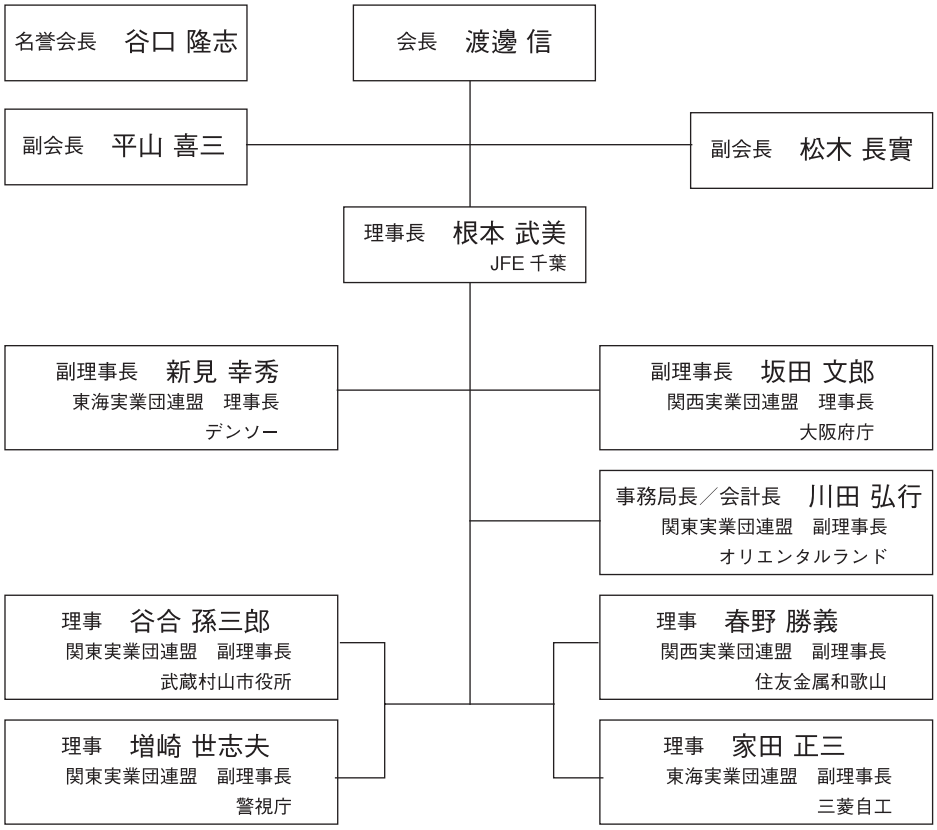
＜参考資料＞
全日本実業団連盟15周年記念誌
全日本実業団連盟30周年記念誌
少林寺拳法五十年史
関西実業団連盟30周年記念誌
金剛禅総本山少林寺広報誌『あ・うん』バックナンバー

その他、寄稿、インタビューにお応えいただいた皆様に感謝いたします。



全日本実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図



歴代会長／理事長一覧

【会　長】

初　代（1970年７月～1980年２月）	藤川 一秋	元株式会社トピー工業　代表取締役会長 元参議院議員（1974年～、1992年８月逝去）
第２代（1980年５月～1995年11月）	遠藤 政夫	元労働省　職業安定局長 元参議院議員（1977年～、1995年11月逝去）
第３代（1996年４月～2008年12月）	谷口 隆志	元労働省　事務次官 現中小企業福祉事業団　顧問
第４代（2008年12月～2010年10月現在）	渡邊 信	元厚生労働省　厚生労働審議官 現中央労働金庫　理事長

【理事長】

初　代（1970年１月～2001年１月）	松木 長實	労働省（認証時：雇用促進事業団）
第２代（2001年１月～2009年４月）	谷合 孫三郎	武蔵村山市役所
第３代（2009年４月～2010年10月現在）	根本 武美	ＪＦＥ千葉



男の約束

初代理事長　松本長實

1969年（昭和44年）９月、労働省支部の設立認可にあたり、開祖宗道臣師家より、特に内山滋関東地区連合会理事長を通じて「労働省支部設立を契機として各職域支部を統括し実業団連盟を創設するようにと特命を受けた。

実業団連盟発足当時は、まさに遅々とした歩みであったが1970年の全国大会に実業団連盟として参加した頃から、急速に組織としてのまとまりを見せはじめていた。

実業団連盟の存在意義は、職域における金剛禅運動＝幸福運動の尖兵であるといえる。言葉をかえれば日本の社会機構の中に、少林寺拳法を浸透させる橋頭堡の役割を果たす存在でなければならないのである。

全国大会の開催が決まった時、我々実行委員たちがその好機に身の引き締まる思いをしたのも、まさにそのためであるといっても過言ではない。

第１回全日本実業団全国大会は、1973年６月24日、日比谷公会堂で開催された。この時の時代背景を考えてみても、73年は前年に日中共同声明により国交正常化したばかりであり、日中友好条約（1978年）の締結前であった。この時期に中国大使館を招待するという事は、実業団の枠を超え、少林寺拳法全体、更には国家間の問題であった。

開催準備だけでも手一杯で、「辞退すべき」との声が多かったのも事実で、説得に苦労もあった。

大会に先立つこと２日前、折から梅雨模様の中、そぼ降る小雨をついて、管長先生ご夫妻が上京された。海老名インターチェンジで車を降られた管長先生のお顔には長途の旅の疲労の色が浮かび、かなりご不調のように見受けられたが、私の手をしっかり握られ、「男の約束だから来たよ」とおっしゃられた。

この約束というのは、全国大会の開催が決まった時、管長先生がたとえ壇上で倒れてもきっと上京するとおっしゃたことを意味するのであるが、この暖かい思いやりのこもった一言で、これまでの苦労が一挙にぬぐいさられ、私は思わず絶句し涙がこみ上げてきた。開祖宗道臣先生の特命を受けて40星霜、本年、全日本実業団少林寺拳法連盟40周年を迎えるにあたり感慨無量のものがある。

私達は、開祖の遺された意思を後世に末永く引き継ぐため、この40年の歴史を通じて、更に職域の連帯感を深め、健全な社会人の育成に努め、強力な実業団組織の拡充を図り、少林寺拳法の組織の更なる発展、隆盛の基幹となる責務があると思われる。



職域は幸福運動によって

第２代理事長　谷合孫三郎

記念すべき全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年を迎えられたこと誠におめでとうございます。

同じ実業団仲間として節目の40周年心からお祝い申し上げます。

「職域を母体とする実業団連盟は、地域社会は金剛禅運動によって、職域は幸福運動によって」という開祖の特命により1970年４月に発足しました。

発足してから今日までの40年間、連盟運営には大変な御苦労があったかと思いますが、関係各位の御理解・御協力・御支援を得てこられたからこそ、ここに連盟40周年を迎えることができたことと思います。

また、近年、我々実業団を取り巻く環境は、年々厳しさを増しておりますが、このような中にあっても、職域の良きリーダーとして活躍されているからこそと思います。

理事長を拝命した当時、少しでも連盟発展に貢献できればとの思いと歴代理事長のように大役が務まるかどうかの不安が過ぎっておりました事が思い出されますが、歴代理事長を経験しておられた先生方に御指導・御支援をいただき、関西・東海の連盟理事長をはじめ多くの諸先輩・多くの拳士達の御理解・御協力のもとに努められたことこそが「これぞ実業団の拳士・仲間達」であることの思いに感謝であります。

本年40周年である記念すべき年だからこそ、40周年記念事業テーマ「志を引き継ぐ」ことに「拳士一人ひとりが、新たな気持ちで実業団連盟発足の原点に立ち返り、職域における少林寺拳法の普及活動を通じ、社会の役に立てることを」心から願っております。

また、関係各位の皆様方には、今後も、実業団連盟に対しまして物心両面の更なる御支援・御協力をお願いいたします。

最後になりますが、40周年事業に携わっていただいた関係者の皆様方に感謝するとともに、2011年開祖生誕100周年の記念すべき年を迎えることなどから、全日本実業団少林寺拳法連盟の更なる発展と皆様方の御活躍・御健勝を心より祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。

支部紹介

全日本実業団少林寺拳法連盟





広島市役所
土肥 哲郎

お陰さまで、当部も皆様のご支援により創部30周年を迎えることができました。今後も部員とともに主体性を持った人格の形成を基本とし、研鑽に励みたいと思います。



呉市役所
橋下 誠

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40年、すばらしいことだと思います。これからも、職域や地域社会において少林寺拳法の教えの実践と普及に努め、開祖が目指した理想社会の実現に寄与していきたいと思っています。



秋田県庁
山田 芳浩

全日本実業団連盟設立40周年、大変喜ばしいことです。秋田県庁にも少林寺拳法経験者が入庁してきていますが、同好会組織でしっかりとネットワークを作ってます。益々がんばりましょう。



JFE 福山
稲田 隆

私が少林寺拳法はじめて40年、支部設立35年の年です。少林寺拳法で学んだものを基盤とし地域に根を下ろした会社コミュニティーリーダーの一員として頑張ります。



JFE 倉敷
小西 幸一

連盟設立当時と現在では取巻く環境が良きにつけ悪しきにつけ余りにも大きく違ってきたが、少林寺拳法の思想は、時代が変っても企業で働く者として存続させなければならない大切な内容です。開祖の志を解り易く教え又、自信と勇気を与えてくれる易筋行を、効率良く安全に体得出来る様、微力ながら今後共、貢献していきたい。



大塚今切
大西 閤男

先の見えない混沌とした現代、少林寺拳法の真価が問われている。少林寺拳法を通じた人づくりに貢献したいと考えます。



本田技研熊本
長尾 隆

定年退職しましたが、少林寺拳法は継続しています。
リーマンショックによる経営見直しで、海外駐在・転勤があり部員が減少しましたが、関連会社や地域の小学生の入部により16名になりました。合志市スポーツ少年団の役員に就任し、今後は地域貢献も進めていきます。



JR北海道札幌
白戸 淳一

全日本実業団連盟設立40周年おめでとうございます。
今後もますます発展していけるよう、北海道で頑張って行きたいと思っております。

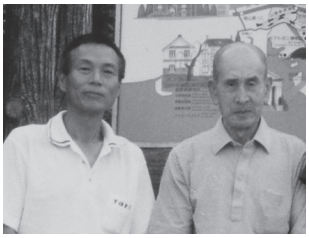
新潟教員
坂爪 一也

本県の指導者は特に小中高問わず教員が多く、公立の学校では転勤にともなって、活動がままならないという現状から設立されました。これからも次世代を担う子供達の指導に尽力したいと思います。



JR四国
大田 康司

ＪＲ四国少林寺拳法部は創立10年を迎え、全日本実業団の40年の歴史のほんの一端を歩ませていただいております。諸先輩方々の苦労を胸にいっそうの躍進をしたいものです。



香川教員
香川 親仁

香川県教員支部は、中学・高校の教員で構成されています。40周年というひとつの節目を迎え、「黎明」のごとく、さらなる発展をさせたいと思います。



山口教員
山本 晃正

人づくり、仲間づくりのために、今後も少林寺拳法を普及させていきたいと思います。



EPSON
鷹野 鉄也
(2010年８月から
伊藤 長徳)

今年生まれたばかりの新しい部です。これから実績を積み重ね、社内でも存在感のある部にして行きたいと思います。ご指導のほどよろしくお願いします。(鷹野鉄也)
部も部長も新米ですが、一生懸命頑張ります。よろしくお願いします！(現部長：伊藤長徳)



全国麻取
小林 茂

全国麻取少林寺拳法部は、力愛不二の精神の下、日々薬物犯罪の撲滅に取り組んでおります。今後も先輩方の意志を受け継ぎ、健全な社会を守る存在であり続けたいと思います。



京都教職員
岡澤 義晃

京都教職員は、全国で一番最初に創部された教員支部です。学校関係と繋がりの深い支部で、高校関係では今年度から全国高体連へ正式加盟することができました。

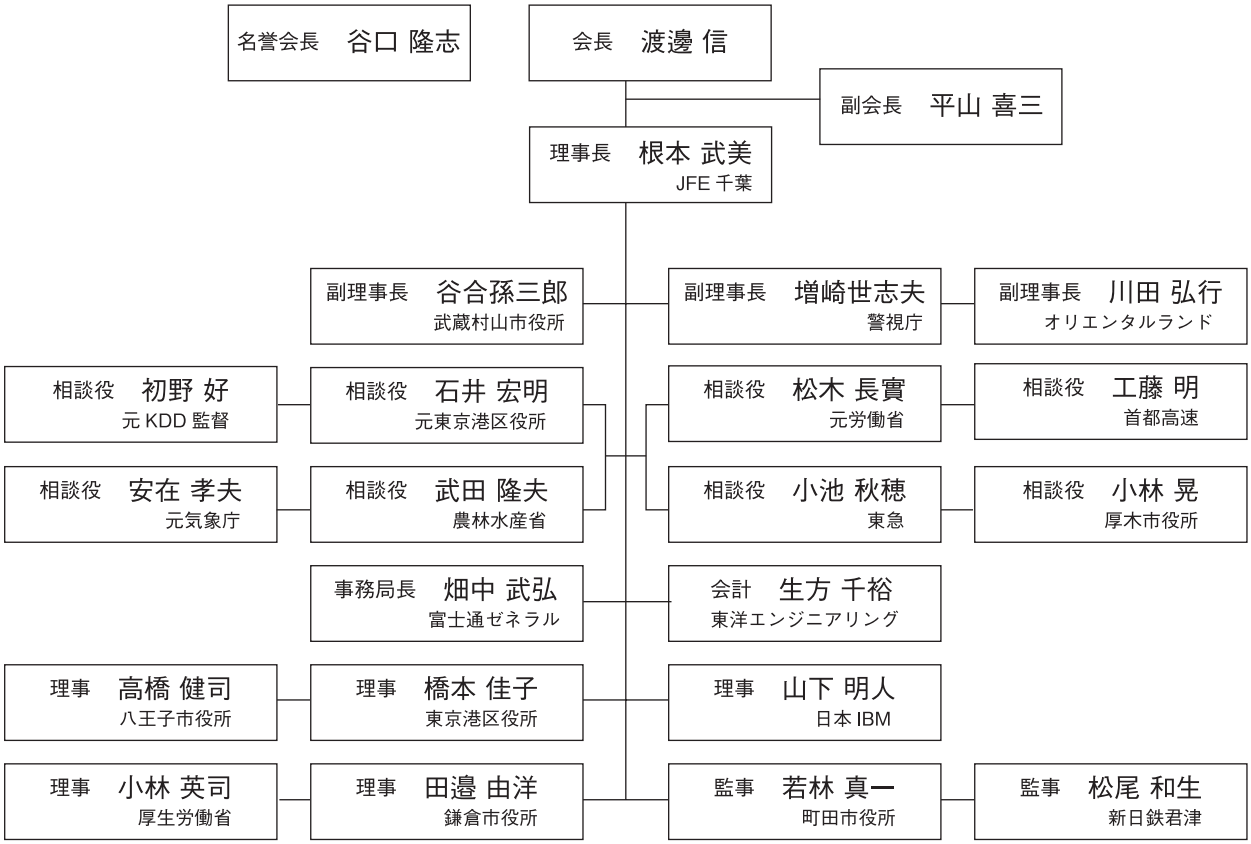


兵庫教員
武貞 裕文

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年おめでとうございます。活動の現場は違っても、楽しくコミニュケーションの輪(和)を広げたいですね。今後、益々のご発展をお祈り申し上げます。

関東実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図



歴代会長／理事長一覧

【会　長】

初　代(1970年７月～1980年２月)	藤川 一秋	元株式会社トピー工業　代表取締役会長 元参議院議員(74年～、92年８月逝去)
第２代(1980年５月～1995年11月)	遠藤 政夫	元労働省　職業安定局長 元参議院議員(77年～、95年11月逝去)
第３代(1996年４月～2008年12月)	谷口 隆志	元労働省　事務次官 現中小企業福祉事業団　顧問
第４代(2008年12月～2010年10月現在)	渡邊 信	元厚生労働省　厚生労働審議官 現中央労働金庫　理事長

【理事長】

初　代(1970年１月～1983年４月)	松木 長實	労働省(認証時：雇用促進事業団)
第２代(1983年４月～1986年３月)	安在 孝夫	気象庁
第３代(1986年３月～1991年７月)	工藤 明	首都公団
第４代(1991年７月～1995年５月)	石井 宏明	東京港区役所
第５代(1995年５月～2001年１月)	武田 隆夫	農林水産省
第６代(2001年１月～2009年４月)	谷合 孫三郎	武蔵村山市役所
第７代(2009年４月～2010年10月現在)	根本 武美	JFE 千葉



実業団連盟こそ少林寺拳法の尖兵

第２代理事長　安在孝夫

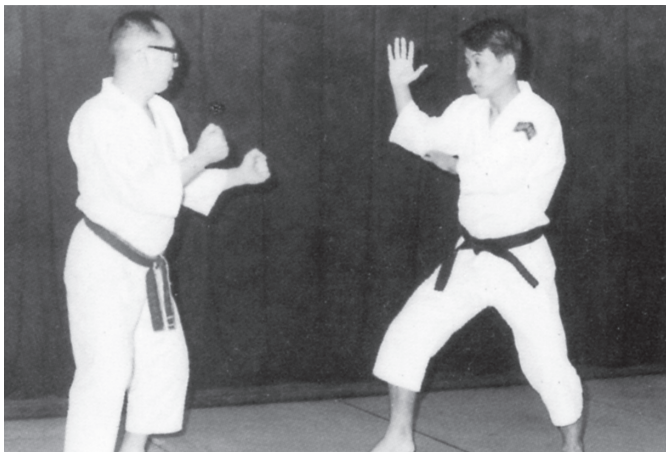
今思い起こしても胸が高鳴るのは、1973(昭和48)年６月24日、日比谷公会堂で行われた第１回全国実業団演武大会である。開祖の特命を受けて開催したこの大会は、ある意味で賭けでもあった。1970年、参加支部12で発足した関東実業団連盟は、1972年に企画した関東地区演武大会さえ、参加者が少なく中止したほどの弱小集団であったからだ。しかし、受けて立った以上、退くことは許されない。しかも、それに加えて、自治大臣だった江崎真澄先生の肝煎りで中国大使館を招待する話が進んだ。さらに、当時、開祖と義兄弟付き合いをされていた笹川良一氏の招待も絡んだ。右翼の大物であった笹川氏と中国とは歴史的に相容れない関係があり、案の定、中国側は難色を示した。

開祖の指示を受けた関東連合会理事長・内山滋先生が先頭に立って動かれた。事態はすでに組織レベルにまで進み、江崎先生と連絡を取りながら、内山先生のお供をして、中国大使館や笹川氏の船舶振興会に何度も足を運んだ。自治大臣室で打ち合わせたこともある。まだ日中友好条約が結ばれていなかったから、当然、右翼の襲撃も予想され、大会当日、実行委員全員に特殊警棒を配布し、貴賓席周辺に配置した。松木実行委員長が「皆、私に命を預けてくれ」といった時、誰も笑う者はいなかった。

大会は成功し、打ち上げレセプションには中国大使館の来賓５名全員が臨席、最後まで開祖と親しく歓談され、ここに日中友好の幕が開けられたのである。

その基礎を築いた実業団に対して、開祖は常に「社会に密着して活動する実業団こそ、組織の尖兵である」といわれ、我々はそれを誇りにして行動してきた。ちなみに『尖兵』とは、部隊の前方を進んで、敵情を探り、敵の攻撃を警戒する小部隊をいう。脚光を浴びることはないが、組織にとって不可欠な存在なのである。

実業団所属拳士の皆様には、これからもその誇りを胸に、堂々と金剛禅の正道を歩んでいただきたい。そして、それこそが、開祖に対する最大の報恩であり、社会への貢献なのである。



1968年　労働省事業団設立の頃
左)安在、右)松木



次世代へつなぐ

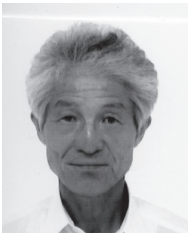
第３代理事長　工藤明

私の理事長就任は、安在さんが長崎転勤のための突然の辞任で、引き受けざるをえない状況に追い込まれたのが真相です。この５年間は前年度から実業団連盟委員会(村上一委員長)が発足し、理事長会議等を含めると７～８回/年、本部へ帰っており、とにかく忙しく動き回った記憶が残っています。1987年には全自衛隊連盟が独立と、組織としても変革の時代でした。

連盟の方は森川さん(当時トッパンムーア支部長)を事務局長に据え、それまで不定期だった事務連絡を「事務局だより」として毎月発行。また、彼の発案で長崎に転勤された安在さんに、「長崎通信」を寄稿してもらい、以来「江戸通信」「福島通信」と続いたことは、我々支部長だけでなく「事務局だより」を楽しみにしている人達が大勢いました。安在さんの善意に感謝するのみです。

研修会も上野さん(当時開東支部長)の努力で、坂東先生の「整法講習会」、中野先生の一泊研修会、外部講師による講演会と、それぞれ内容のある魅力的なものを開催することが出来ました。本当にまわりの人たちに助けられて続いた５年間だったような気がします。

最後に石井さんへの理事長交代の顛末を話しておきます。私は理事長を受けた時から、一人が長くやるべきではないと思ってきました。ただ、私が受けたときの年齢が42歳と若かったことから、周りから長期政権だと思われ組織の将来を考えると決していいことはないと考えたのです。私なりに根回しをしたつもりだったのですが、受けて貰えずあのような強硬手段に出たというのが真相です。一時的に組織を混乱させたことは、申し訳なく思っていますが。今の連盟が７代目の理事長となり私が目指した方向に向かっている感じがします。若い人が順調に育ってきています。決して足を引っ張ることなく全面的に協力をして行きたいと思います。



実業団で得た生涯の友

第４代理事長　石井宏明

全日本実業団及び関東実業団少林寺拳法連盟は、歴史的にはほぼ同じ歩みを刻んできました。そこで私は、二期４年間自分が主に携わってきた関東実業団少林寺拳法連盟の理事長として、一言述べさせていただきます。

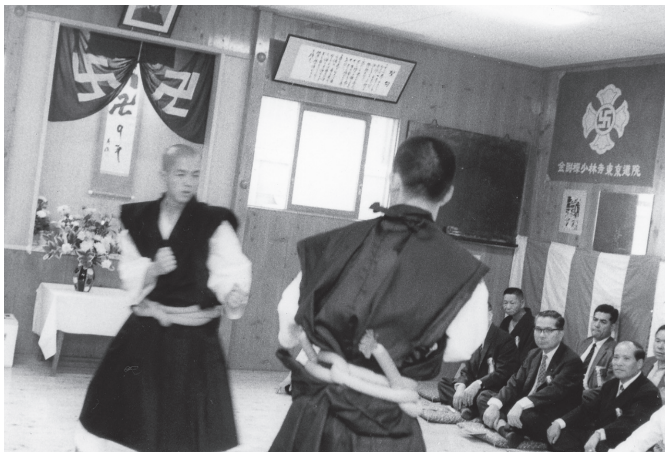
まず、私が理事長としてどうしても実現したかったのは、実業団拳士相互の仲間意識の醸成でした。睡眠時間を除けば、一日の大半を職場で過ごす勤労者同志です。悩みも喜びも共有する同じ仲間なら、上下の壁を作ってしまう「先生」という呼び方はやめよう。せめて部長同志だけでも、平等に「さん」付けで呼び合おうと提唱しました。残念ながら、それは定着しませんでした。

次に試みたのは、当時、前理事長の工藤さんと始めた「皇居一周申告タイム制ジョギング大会」でした。事前に申告したタイムに最も近い時間で走った拳士が優勝という、強さだけを追求しない少林寺拳法の理念に沿ったルールにしました。これは年々参加者が増え、現在も拳士やその家族の憩いの場になっています。

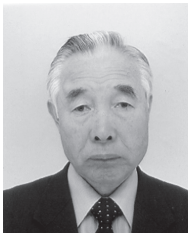
また、当時の木村会長との出会いから、少林寺拳法関東学生ＯＢ会連合会との新たな交流が始まりました。大学の少林寺拳法部拳士の卒業後の継続率が極端に低いことは、生涯修行を標榜する少林寺拳法の組織として看過できません。たとえ、数はわずかでも、実業団の少林寺拳法部が、卒業後も修行を継続したい大学生拳士の受け皿になれば、という双方の思いが一致した結果でした。その効果は徐々に現れてきつつあり、組織同志の交流は今もなお地道に続いています。

そして、実業団の拳士は、隣のビルに少林寺拳法部ができれば、仲間が増えたと喜びます。そんな暖かみが、実業団の行事に参加する度に、故郷に帰ったような気持ちにさせてくれる一因だと思っています。私は実業団で一生の友も得ることができました。

この40周年を機に、開祖が常々説かれていた「素晴らしい人間関係の輪」を全実業団拳士が内外により大きく広げていくことを心より願ってやみません。



1960年頃



一丸となって取り組んできた成果

第５代理事長　武田隆夫

当部(支部)設立1970年(昭和45年)９月以来、関東実業団少林寺拳法連盟との係わりの中でこれまで最も印象深かったことは、部設立間もない1973年６月24日に日比谷公会堂において開催された第１回全日本少林寺拳法全国実業団大会であります。関東実業団少林寺拳法連盟としても大会に関する開催経験が無い中で、即全国大会を行うということになり、経験不足で不安も多く、また、部(支部)数も少なく、しかも、大会までの準備期間は僅か半年足らずで大会を迎える状況の中で、特に印象に残っているのは、大会の運営に必要な浄財を確保するため、大会に協力を頂ける関係企業に仕事の合間を縫って実行委員が手分けして訪問したことであります。(本当に良き時代(？)であったと思います。今日では考えられないことです。)大会当日まで準備に忙殺され、大会が終わった後、職場に戻ったときには机があるのだろうかということが合言葉でありました。特に、当大会を通じて関東実業団少林寺拳法連盟の部長間の絆が一層深まり、現在の関東実業団少林寺拳法連盟の礎になっていると思います。

私は、1995年(平成７年)５月20日に開催された関東実業団少林寺拳法連盟総会において、理事長に選任され、任期中における当連盟が開催した主なる大会関係の中で、印象に残っているのは理事長就任の翌６月24日には関東実業団少林寺拳法連盟25周年記念大会・記念式典を滝野川会館ホール(北区)で開催されるという慌しい思いをしたことを記憶しております。また、2000年10月29日に東京都中野区立体育館において全日本実業団少林寺拳法連盟30周年記念大会、記念式典は中野サンプラザにて開催され、総裁をはじめ多数の来賓にご臨席を賜り大盛会のうちに終了しました。しかし、大会・式典が開催されるまでの準備等に忙殺され大変厳しいところがありました。役員、各部門担当者が中心となって推進してきたことは勿論のことですが、部長・拳士が協力し合い一丸となって取り組んでの成果であります。全国規模の記念大会・記念式典を開催することとなりますと、何時の時も大会・式典の内容、浄財の確保及び記念誌の作成の取りまとめ等に大変な労力と時間を費やすこととなりますが、大会を成功裡に導くためには役員、部門担当者だけでなく、それ以外の部長、拳士が結束して協力し合えることが大切であります。先ずは今回開催される40周年記念を関係者一同とともに祝し、50周年記念に向う節目の催しとなることを祈念致します。

関東実業団連盟のあゆみ

1969年

9月　雇用促進事業団支部(現労働省：支部長　松木長實)設立認可にあたり、開祖より内山滋関東地方連合会理事長(当時)経由で、関東に実業団連盟を組織するように指示があった

1970年

1月　関東地方連合会のバックアップを受け、関東地方支部長会議を招集する。(議長：松木長實)

4月　関東実業団連盟として本部登録

7月　本部での指導者特別講習会参加の折に、松木副理事長が開祖に経過報告を行い、次のような指示をいただく。

①近い将来必ず全国組織が必要となる。長期的展望に立ち全日本実業団連盟として発足せよ。

②実務は関東実業団連盟が全日本を兼務せよ。

③理事長は、実業団支部長より選出せよ。

上記の指示を受け、関東実業団連盟総会を招集し、理事長に松木長實(雇用促進事業団)を選出。全日本実業団連盟を兼ねることを可決する。

10月　1970年少林寺拳法全国大会が日本武道館で開催される。この大会で「実業団の部」が新設され、出場する。

1971年

11月　関東地区合同練習会開催。

場所：新宿区立体育館

講師：中野益臣先生(埼玉中部道院長)

松田欣一郎先生(山ノ手道院長)

参加支部は次のとおり。雇用促進事業団・富士重工三鷹・防衛庁市ヶ谷・東京重機・東京応化・首都高速道路公団・国会・三鷹市役所・農林省・秦野・大蔵省印刷局

1973年

6月　全日本少林寺拳法全国実業団大会(第1回)開催。会場は、東京都千代田区の日比谷公会堂であった。

大会会長：藤川一秋(トピー工業㈱会長)

大会副会長：遠藤政夫(労働省職業訓練局長)

鈴木久進(鈴木シャッター㈱会長)

長澤亮太(建設大学中央訓練所長)

中田定士(雇用促進事業団理事)

実行委員長：松木長實(労働省)

この大会には中国大使館より李連慶参事官、程志邁一等書記官、潘一鳳二等書記官、高復金二等書記官、顔萬栄通訳官の５名が臨席され、少林寺と中国の友好の幕開けとなった。

大会終了後、日比谷パークセンターで行われたレセプションに中国側５名と江崎真澄、松平頼明両特別顧問が列席され、開祖と歓談、交流された。

1978年

5月　少林寺拳法国会議員有段者允可状授与式が、日本武道館貴賓室で行われ、藤川会長が六段、遠藤副会長が三段をそれぞれ授与される。

1979年

9月　1979年関東実業団演武大会(第１回)を開催する。

場所：東京都新宿区立体育館

参加：支部は22支部で、参加は150名。

連盟所属支部は、東京31・埼玉２・千葉10・神奈川９・茨城２・栃木２・長野１・山梨１の58支部。

1981年

6月　関東実業団連盟合宿(第１回)開催。

場所：神奈川県湯河原町『越前屋』

講師：松田欣一郎先生(山ノ手道院長)

1984年

9月　全日本実業団連盟15周年記念全国大会前夜祭開催(中野サンプラザ)

全日本実業団連盟15周年記念全国大会(第4回)開催。場所は東京の中野サンプラザ。

1985年

4月　関東実業団連盟研修会(第1回)開催。内容は、整法研修会①

場所：首都高速道路公団道場

講師：板東邦伯先生(徳島道院長)

参加：30名

1987年

3月　関東実業団連盟講演会(第1回)開催。

場所：ニチレイ本社会議室(東京都千代田区)

講師：清水潤先生(清水建設顧問)

議題：「防衛費を考えよう」

参加：40名

1991年

9月　少林寺拳法関東実業団20周年記念大会(第11回)開催。

場所：品川区立総合体育館『きゅりあん』の大ホール。

参加：支部は17支部で、参加者は約200名。

連盟所属支部は、東京21・埼玉１・千葉９・神奈川10・茨城１・栃木１の43支部。

大会終了後、全日本実業団連盟20周年記念祭開催。場所は同所の小ホール。

1992年

3月　第１回皇居一周申告タイム制ジョギング大会開催。場所は皇居。参加支部は10支部で、参加者は40名。

1994年

8月　1994年度少林寺拳法関東実業団大会(第15回)開催。

場所：JUKI体育館(東京都調布市)

参加：支部は23支部で、参加者は約200名。

連盟所属支部は、東京21・埼玉１・千葉７・神奈川９の38支部で、他に休部中が５支部。

1995年

6月　少林寺拳法関東実業団連盟25周年記念大会(第16回)開催。

場所：滝野川会館大ホール（東京都北区）
参加：支部は28支部で、参加者は約200名。
連盟所属支部は、東京22・埼玉２・千葉７・神奈川９の40支部で、他に休部中が５支部。

1996年

11月　関東実業団連盟支部長研修会（第１回）開催。
場　所：　東京港区役所９階会議室
講　師：　小宮山宣司（浦和市役所支部長）
初めての試みで、支部長を中心として開催した。参加者は23名で、そのうち支部長は15名であった。

1997年

9月　財団法人少林寺拳法連盟・少林寺拳法世界連合の共催による、創始50周年記念大会「国際大会'97　記念式典・祝賀会・記念祭」が大成功理に終了。国際大会の模様は、当日のＮＨＫ・ＴＶニュースでも報道され、大きな反響を呼んだ。特に記念祭での高齢者演武に武田・小池及び石井支部長並びに加藤相談役がそのいぶし銀の演武を披露した。

2000年

10月　全日本実業団30周年記念大会を東京都中野区立体育館にて開催する。全国から総勢約300名の参加があった。実行委員のほとんどが前日より泊り込みで最終確認を行うなど、まさに「手作りの大会」で、大盛会のうちに終了したことは、『月刊少林寺拳法』でも大きく紹介された。
なお、同日2000年度少林寺拳法関東実業団大会（第21回）開催。
引き続き、中野サンプラザにて記念式典を開催。総裁をはじめ、多数の来賓の皆様にご臨席いただき、第1回大会の貴重なビデオ・スライドを紹介するなど、参加者の心に残る式典になったことはいうまでもない。

2001年

1月　全日本実業団連盟が財団法人日本武道協議会より、武道優良団体として表彰される。
10月　関東実業団連盟ホームページ開設。（その後、一時閉鎖。2010年より全日本実業団連盟ホームページの中でリニューアルオープン）

2006年

12月　関東実業団連盟研修会（第20回）開催。
講　師：川島一浩先生
テーマ：「剛法・柔法の基本と運用」
参　加：最高記録更新・105名。うち女性拳士21名。
研修後の懇親会は恒例の宇多美寿司。

2009年

9月　関東実業団連盟合宿研修会（第12回）開催。93年以来、16年ぶりの開催となる。
場所：山梨県笛吹市　石和温泉『ホテルくにたち』
講師：石井宏明先生（関東実業団連盟相談役）
参加者は25名。参加部内訳は次のとおり。首都高速・厚生労働省・東京港区役所・農林水産省・八王子市役所・警視庁・日本IBM・経済産業省・東京都交通局千住・鎌倉市役所・富士通ゼネラル・東洋エンジニアリング・JFE千葉・オリエンタルランド。
10月　2009年度少林寺拳法関東実業団大会（第30回）開催。
場所：千葉県浦安市運動公園総合体育館武道場
連盟所属部は、東京16・千葉６・神奈川７・栃木１の30部、準加盟１部で、他に休部中が11部。

2010年

1月　関西、東海、全日本支部を含めた全日本実業団連盟のホームページをオープン。本部公認第一号となる。
6月　関東実業団連盟合宿研修会（第13回）開催。東京近郊浦安にて練習＆温泉のカフェテリア形式という新機軸。
7月　東京都大会（共催）アトラクションにて「現代社会の護身術　男は一旦家を出れば７人の敵が待つ」を披露。
9月　金剛禅総本山少林寺の拳士勧誘チラシ・ポスターにビジネスマンモデルとして協力。
10月　全日本実業団連盟設立40周年記念式典を開催。

※　「関東実業団連盟のあゆみ」は、各年の主要行事を毎年積み重ねるかたちで掲載しています。よって、所属名等の表記は更新せず、それぞれ当時の状況で記載しておりますことをご了承ください。



支部紹介

関東実業団少林寺拳法連盟





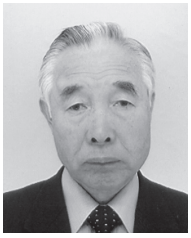
首都高速
工藤 明

40年！　長かった様な、短かった様な何とも云えない気持ちです。若い世代の活躍で、今後も実業団らしさを失わない発展を期待します。



厚生労働省
小林 英司

初代支部長の松木先生（全日本実業団連盟副会長）が創立されて昨年40年を迎え、まさしく実業団連盟とともに歩んできました。引き続き開祖の志を末永く継承できるよう実業団の立場から尽力したいと思います。



農林水産省
武田 隆夫

本当に月日が経つのは早いもので設立40周年を迎えることとなりますが、この間、いろんな人との出会いにより教え、勉強をさせて頂きました。今後とも少林寺拳法と関わりを持ちながら生涯教育として継続していきたいと思っています。



鎌倉市役所
田邉 由洋

業務の多様化と人員削減により稽古への出席者が激減していますが、少数精鋭をモットーに地道な活動を続けています。出席者が一人であっても指導に駆けつける気構えを持って取組んでいます。開祖の志を受けて連盟を立ち上げた松木先生や、これまで連盟の運営にご尽力戴いた役員の方々に感謝いたします。今後も「志を引継ぐ」の精神で50周年に臨みたいと考えます。



町田市役所
若林 真一

町田市役所少林寺拳法部は、今年で創部35周年を迎えます。連盟の歴史は、すなわち部の歴史でもあり、とても感慨深いものがあります。今後も開祖の教えを守り、微力ながらも少林寺拳法の普及に寄与していきたいと思います。



東京港区役所
橋本 佳子

武道探求、ストレス発散、健康増進など目的はさまざまですが、皆楽しく・真剣に稽古に励んでいます。
今後も「生涯現役」を合言葉に、部員一丸となって少林寺拳法を盛り上げていきます。



NTT通研
安田 恒雄

ＮＴＴ通研支部も来年創設35周年を迎えます。設立の熱い志を思い出し、次の世代にしっかりと伝えていけるよう、一丸となって頑張りたいと思います。



厚木市役所
小林 晃

拳士の中で役職者が多くなり、修練にでられない場合が多々あり、そんな時でも焦らず継続することに重点をおいて、『自らを生かし伸ばし楽しみ　他を生かし伸ばし楽しみ　新しい思想を生かし伸ばし楽しみ　すべてを生かし伸ばし楽しむ』に努めております。



宇都宮市役所
黒須 三男

餃子の町宇都宮市に宇都宮市役所少林寺拳法部があります。宇都宮市役所少林寺拳法部も今年度部設立25年を迎えようとしています、部員の年齢も高齢化傾向にありますが皆元気に少林寺拳法に励んでおり生涯学習として続けたいとの声が各部員から聞こえています。



武蔵村山市役所
谷合 孫三郎

「職域を母体とする実業団連盟は、地域社会は金剛禅運動によって、職域は幸福運動によって」との開祖の特命を受けて発足した原点に立ち返り、職域における少林寺拳法の普及活動を通じて社会の役に立てることを実践する。



八王子市役所
高橋 健司

前回の30周年から、あっという間に迎えた印象の40周年。実業団特有のアットホームな雰囲気の中、活動を続けられていることに感謝いたします。この雰囲気を継続し、50周年も参加できるよう頑張ります。



警視庁
増崎 世志夫

警視庁内部に指導者を一人でも多く育成し、各署で修業ができる環境を目指してきましたが、道半ばにして退官します。後は、後進の頑張りに夢を託すのみです。



JUKI
栗山 安生

人、人、人、すべては人の質にある。
少林寺拳法の原点です。



日立柏
高木 俊知

創部38年目を迎えましたが　更なる継続・発展を刻んで行く所存です。



富士通ゼネラル
畑中 武弘

“光陰矢のごとし”30周年記念大会から早や10年が経ったかという感じです。 40周年を節目に原点に帰り、次の50周年に向けて飛躍していきたいと思います。



東急
小池 秋穂

とてつもなく厳しい世情が続く。こんな時こそ開祖の説かれた「人の質」の向上について真面目に取り組む。この地球上に人類が存する以上いつの世もこの３文字が求められるのだから。



東洋エンジニアリング
生方 千裕

40周年を契機に原点を見つめ直し、一人でも多くの拳士が自信をもって少林寺拳法の修行を長く続けられる様にしたい。黒帯の拳士を増やすのが当面の目標。



新日鉄君津
松尾 和生

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年誠におめでとうございます。今後も当連盟の益々の発展と広がりを期待します。



富士通中原
皆川 英治

これからも支部の仲間と一緒に、少林寺拳法の教えと技法を正しく身に付け、楽しく長く修行できる支部運営を目標に、自己研鑽を通じた人間形成の向上に励んで行きたいと思います。



JFE千葉
根本 武美

40周年を迎えるにあたって、連盟の活性化を強く望みます。JFE千葉においても、明るい将来を信じて元気に活動して行きます。先ずは、新入部員の獲得に力を注ぎます。そして、現状に満足せず、技術研鑽と楽しい活動も随時取り入れて行きます。また、我が部は少年少女の拳士も多数おります。将来、開祖の「志を引き継ぎ」、社会に貢献できる大人になるようしっかりと指導して行きます。



SONY
外山 雅一

開祖が語られた、本当に社会にとって有用な人材は、実業団連盟の中に大勢います。平成維新の今こそ少林寺拳法の拳士の価値が問われる時代になったと感じています。全日本実業団連盟の50周年に向けて、着実に新たな歩み継続させて行きたいです。



出光千葉
樋口 文孝

今年の４月に部長を交代しました。現在、活動が少し低迷しておりますが、50周年には多数の部員と祝えるよう盛り上げていきたいと思います。



オリエンタルランド
川田 弘行

当部は、設立20周年を迎えます。全日本実業団連盟から20年遅れての設立ですが、これからもますます連盟と共に発展させたいと思います。



HOYA
菅原 正則

厳しい部の環境ですが、「開祖の志」を将来にわたって継承し、少林寺拳法の持続的な発展のため、活性化を図っていきたい。



日本IBM
山下 明人

2003年に設立したまだまだ若い部ですが、「おもしろ　おかしく」をモットーに、人と地球に豊かさを潤いを提供すべく、日々活動しています。明るく楽しく前向きに！



東京都
交通局千住
平井 浩司

部を設立して４年目になります。統廃合や転勤等で部員が減少し運営が非常に厳しい状態ですが、もっと部員の募集に力を入れ笑顔でこの危機を乗り切りたいと思います。



経済産業省
加藤 浩

40周年を迎えた今、様々な職域において、私たちの活動に対する期待が高まっているようです。私たちの活動が、明るい社会の実現の一助になることに期待しています。



NMP千葉
久保 敦志

40周年おめでとうございます。当支部は記念すべき年に産声をあげました。次の10年、 20年に向けて実業団連盟の発展に全力を挙げて行きたいと思います。

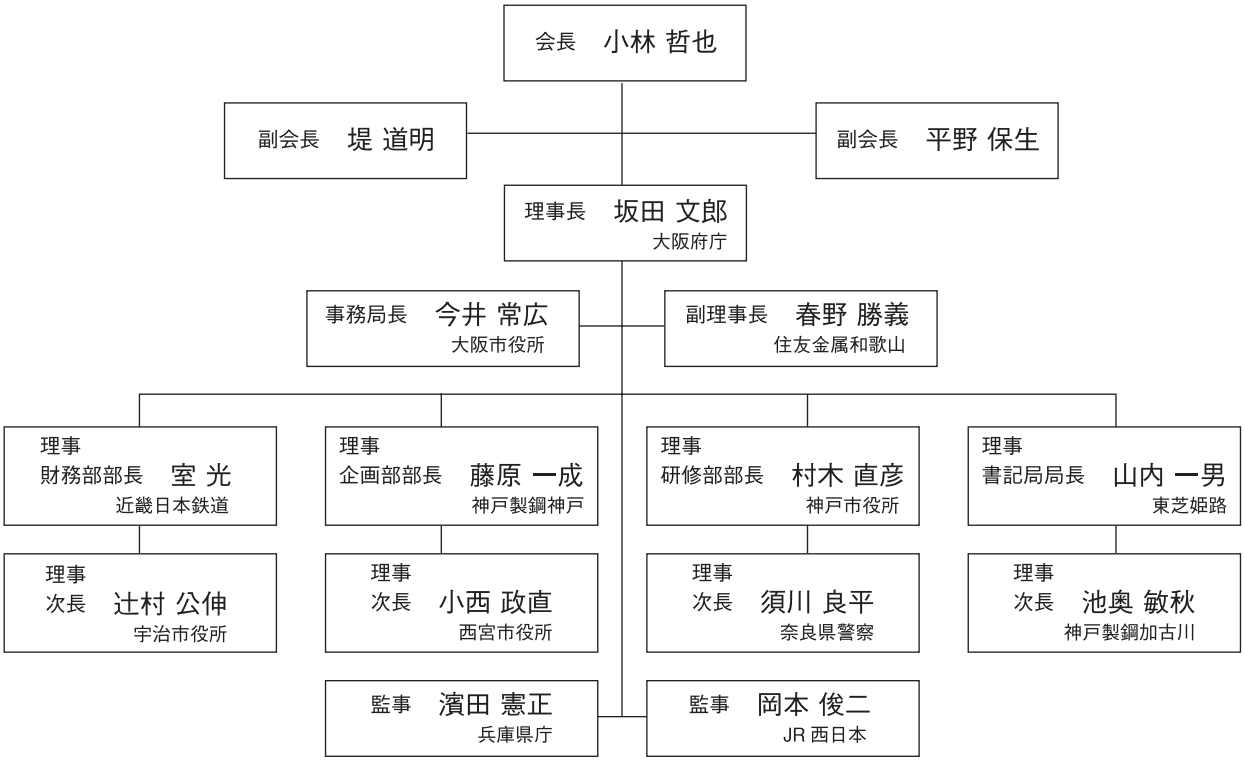


防衛省
今泉 健彦

防衛省支部は1960年に許可を受け、自衛隊という縦社会において「道着を着れば階級なし」のモットーで50年活動してきました。実業団設立40周年を一緒に迎えることができ大変喜ばしく思っており、今後50周年、 60周年と同じように迎えることができるよう頑張っていきます。

関西実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図



歴代会長／理事長一覧

【会　長】

初　代（1977年10月～1978年３月）	小川 鍛	松下電器産業㈱専務取締役
第２代（1978年４月～1981年３月）	日向 方斎	関経連会長・住友金属工業㈱取締役会長
第３代（1981年４月～1986年３月）	小南 曠	㈱神戸製鋼所取締役副社長
第４代（1986年４月～1992年３月）	津田 謹治	象印チェーンブロック㈱取締役会長
第５代（1992年４月～1998年３月）	上山 善紀	近畿日本鉄道㈱取締役会長
第６代（1998年４月～2005年３月）	辻井 昭雄	近畿日本鉄道㈱代表取締役副社長
第７代（2005年４月～2009年３月）	村田 哲也	元㈱神戸製鋼所取締役
第８代（2009年４月～2010年10月現在）	小林 哲也	近畿日本鉄道㈱代表取締役社長

【理事長】

初　代（1977年10月～1978年３月）	松本 一男	神戸製鋼加古川
第２代（1978年４月～1996年３月）	小笠原 国勝	住友金属和歌山
第３代（1996年４月～2010年３月）	中野 幸一	松下茨木
第４代（2010年４月～2010年10月現在）	坂田 文郎	大阪府庁

ご挨拶



近畿日本鉄道㈱代表取締役社長
関西実業団少林寺拳法連盟
会長　小林 哲也

全日本実業団少林寺拳法連盟におかれましては、このたび40年の佳節を迎えられ、誠におめでとうございます。心よりお祝いを申し上げます。

全日本実業団少林寺拳法連盟は、1970（昭和45）年、少林寺拳法による人づくりを目指し、開祖の命により創始されたとお伺いいたしております。以来、社会人における少林寺拳法の普及に力を注ぐとともに、職域間の交流やそのネットワークの充実に努めてこられました。現在、連盟に所属する職域は七十有余を数え、関東はもとより東海、関西の各連盟および各支部と連携しながら、活動の裾野を拡げておられます。今日のご発展も、ひとえに渡邊連盟会長をはじめご関係の皆様の一方ならぬご尽力の賜物と心からお慶びを申し上げる次第であります。

昨年、関西実業団少林寺拳法連盟では、初の試みとなる合同合宿を実施し、職域を超えた拳士相互の交流や結束強化を図りました。あらためて心の交流の必要性を感じた次第であります。昨今のような社会にこそ求められているのは、まさに少林寺拳法が求める人間性の涵養にあるのではないかと思います。開祖が目指された「人づくりによる国づくり」の精神が今ほど求められている時代はないのではないでしょうか。今後とも少林寺拳法を通じて将来を担う人材の育成に些かでもお役に立って参りたいと考えております。皆様方におかれましては、引き続きご支援ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、これまで全日本実業団少林寺拳法連盟の発展にご尽力頂きましたご関係の皆様のご労苦に対し、深く敬意を表しますとともに、連盟の今後ますますご隆昌を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

合　掌

社会のリーダーたるべく
基盤づくりを



関西実業団少林寺拳法連盟
理事長　坂田文郎

ここに全日本実業団少林寺拳法連盟が40周年を迎えることができましたこと、誠に喜びに堪えません。これまで実業団連盟を支えていただいた関係各位のご理解とご支援、並びに諸先輩方の弛まぬ努力の賜物であると、心より感謝申し上げます。

少林寺拳法は、開祖宗道臣先生が、「人づくりによる国づくり」を目指し、1947年に少林寺拳法を創始されて以来、今日に至るまで、その開祖の志は多くの人々や世代に受け継がれてきました。時代の大きな流れやめまぐるしい変化の中で、開祖の志を風化させずに、次世代に引き継いでいくことは、簡単なことではなかったと思います。実業団連盟の歩みを振り返り、改めて関係各位、先輩諸氏に感謝を申し上げたいと思います。

今回、全日本実業団少林寺拳法連盟が設立40周年を迎えるにあたり、掲げたテーマ「志を引き継ぐ」は、我々の大きな使命であり、改めてその重みを胸に刻むものであります。

現在、我々実業団を取り巻く環境は、バブル崩壊以降の長引く不況や百年に一度と言われる経済危機など、職域で活動する実業団支部にとっては非常に厳しい状況にあると言えます。

こうした中においてこそ、うぬぼれでない自信と行動力をもった少林寺拳法の拳士一人一人が、各職域におけるリーダーとして活躍することが求められていると思います。そのためには、実業団各支部がより一層団結し、さらには拳士一人一人が手を取り合い、未来について語り合える、そのような関係の構築が必要であると思います。全日本実業団少林寺拳法連盟は、設立40周年を機に、関東・東海・関西の各実業団連盟のみならず、全国の実業団支部がより連携し、団結することにより、拳士一人一人が社会のリーダーたるべく力を発揮できる環境を整え、職域における幸福運動展開の基盤となることが必要と考えます。

私も微力ながら、力を尽くしてまいりたいと思っております。関係者の皆様、先輩諸氏におかれましては、引き続き、ご指導、ご鞭撻の程をよろしくお願い申し上げます。



職域で真の少林寺拳法の教えの実践を

第２代理事長　小笠原国勝

合掌、全日本実業団連盟設立後40年間の歳月には幾多の変遷がありました。その歴史を残す事業として記念誌を発行されることは誠に喜ばしい事でもあり、この道のＯＢとして敬意を表します。

全日本実業団連盟が発足した年、期を同じくして、私は千葉の地から関西の住友金属に入社し、住友金属和歌山支部を開設しましたが、今年は設立40年の継続表彰も頂きました。

在職中は関西の地にある実業団支部(52支部)をまとめる理事長としても18年程、頑張って来ましたが、特に職域支部はその時代の社会環境に大きく影響される中で、少林寺拳法の教えそのものを職場に活かすことが何よりの命題であったと思います。開祖曰く「することをした後に、言うことを言え」とか「何事も半分くらいは相手のことを考えて行動しろ」とかの激励を受ながら、 20代から50代前半までの実業団連盟での活動は私の人生の礎となった事を強く感じます。掛け声だけでは誰もついてきてくれるものではない。周囲を燃えさせる為には、何よりも自分が平気で他の犠牲になれるだけの覚悟と信念が問われるものである、ということを開祖 宗道臣先生を側に見て学ぶことができました。

社会環境も10年一昔ではなく、１年一昔ほどの速さで激変しつつあり、今迄のやり方では少林寺拳法も世の中から葬り去られると言う危機に差し至り、２年ほど前からのSKPを立ち上げ、正しい教えを継承する揺るぎない団体に向かって突き進んでいます。まさに、流れに沿って流されずであります。これからもそれぞれの職域で真の少林寺拳法の教えが地について実践されることによって、この団体が今後とも高い評価を受けて行くことが少林寺拳法のブランドを高め揺るぎないものとなるでしょう。

私は職域から地域社会に移り自分の身の丈に相応した活動を展開しながら、実業団のOBとしてささやかながらサポートさせて頂いています。今後益々の発展を節にお祈り申し上げます。

合掌



すばらしいチームワーク

第３代理事長　中野幸一

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年おめでとうございます。今日の健全な連盟の存在は、サポート頂いた多くの歴代役員の先生方、先輩諸氏のたゆまぬ努力があったからこそだと思います。連盟設立当初の苦労話をお聞きしては、若かった先輩諸氏が、連盟の為に積極的に奔走されて、今日の基礎固めをされた功績は素晴らしいと思います。果たして、その場に自分を置いた場合、同様の行動が出来たか？　不安の一面も思い浮かべ、先輩諸氏の強い意志「何とか、しなければ！」に感銘させられます。

私が、理事長を引き継ぐ時は、既に安定期に入っており、小さな諸問題はあったものの、無事に任期を終える事が出来ました。思い出としては、全国理事長会議に連盟として提案した『全国大会積立金の件』を引き続き報告するのが最初の大仕事でした。２～３回報告を行いましたが、新米でしかも口下手で冷汗をかきながらの報告でした。結果は、廃案となりましたが、今思えば、都道府県連盟は、何十年に１回の大会は、会場を含め、多少のお金はやむを得ないと云う感想です。又、東京で開催された30周年記念式典では、連盟の会長が、業務の為急遽参加出来なくなり、当時相談役の村田哲也前会長に相談したら、「私で良かったら、行かせてもらうよ！」との即答を頂き感激しました。今でもあの時の嬉しさは忘れられません。

その他連盟では、小さな諸問題がいくつかありましたが、南副理事長、深見副理事長、小山事務長と云う素晴らしいパートナーに巡り合い、都度解決して来ました。又、外部からは、茨木市少林寺拳法連盟の若林三雄会長（松下茨木特別顧問）のお力添えもあり、理事長の職を、７期（14年間）全うすることが出来感謝しています。

2010年、「岡田JAPAN」は、決勝第一戦で惜しくも敗れましたが、素晴らしいチームワークを見せ、多くの国民に感動を与えました。関西実業団連盟の新三役は、坂田理事長を中心にチームワークも良く、何かやってくれる期待感があります。それが更には、全日本実業団連盟の発展に寄与していくものと信じています。

関西実業団連盟のあゆみ

1977年

４月　連合会結成に向けて始動。

10月　小川鍛（松下電器産業㈱専務取締役）先生を迎え、関西２府４県の職域支部（45支部）で連合会結成記念大会を開催。出場者数450名。初代理事長　松本一男（神鋼加古川支部長、本部中央委員当時）

1978年

４月　役員改選、関西実業団連合会と名称変更

連合会会長　日向方斎（関経連会長・住友金属工業㈱取締役会長）

副会長　小川鍛（松下電器産業㈱常任顧問）

副会長　小南曠（㈱神戸製鋼所取締役副社長）

理事長　小笠原国勝（住友金属和歌山支部長）

副理事長　松本一男（神鋼加古川支部長）

常任理事　高倉正明（松下茨木支部長）

1979年

２月　連盟総本部より社団法人日本少林寺拳法連盟関西実業団連合会正式認可、発足。（加盟32支部）

11月　第３回実業団全国大会を開催。大会長に日向方斎会長が就任、実行委員長は小笠原国勝（関西実業団連盟理事長）、全国160支部の代表拳士500名、観衆5000名で開催。開祖・宗道臣師家臨席最後の大会となる。
組織名称を連合会から連盟に改称。

1980年

11月　第１回関西実業団連盟研修会開催。
講演：小南曠先生、技術講師：森道基先生
（於：松下電器社員研修所）参加者70名。

1980年度全国大会（於：日本武道館）へ７組の拳士を派遣

1984年

９月　全日本実業団15周年記念大会開催。（於：東京・全国勤労青少年会館）当連盟からは小南曠会長はじめ多数の拳士、支部長が参加。

1986年

３月　長年にわたりお世話いただいた連盟会長の小南曠先生、小川鍛先生が会社定年と共に退任され、新会長に津田謹治先生以下次の４名の先生方を副会長に迎えた。

連盟会長　津田謹治（象印チェーンブロック㈱取締役会長）

副会長　安部和寿（近畿日本鉄道㈱専務取締役）

副会長　鈴木昭男（㈱神戸製鋼所常務取締役）

副会長　高畑敬一（松下電器産業㈱取締役音響本部長）

副会長　原寿治（住友金属工業㈱取締役能力開発室長）

1987年

８月　第10回関西実業団大会開催。高畑敬一大会長、栩野洋一実行委員長（於：松下電器枚方体育館）今回10周年記念大会として、宗由貴総裁の臨席を仰ぎ盛大に開催。参加者420名。

1989年

10月　第10回関西実業団研修会開催。高畑敬一先生（松下電器産業㈱常務取締役・連盟副会長）の企業活動と品質管理についての貴重な講話を拝聴。

1996年

４月　連盟役員改選、名誉役員一部変更。

理事長　　中野幸一（松下茨木支部長）第１期

副理事長　南甲二（大阪市役所支部長）第１期

事務局長　中西典昭（大阪府庁支部長）第９期

９期（18年）の長きにわたり理事長を勤めた小笠原国勝支部長が勇退。同時に相談役に就任。

1999年

５月　関西実業団連盟で初めての昇段試験を実施。以降年２回（５月、 10月）継続を決定。

６月　第20回関西実業団研修会開催。森道基先生を迎えて実施。 60名参加。

11月　第22回関西実業団大会開催。（於：大阪市中央体育館）

2007年

７月　第30回関西実業団大会開催。本部より堤清彰副会長を迎え実施。

11月　11月18日、関西実業団少林寺拳法連盟結成30周年記念祝賀会をシェラトン都ホテル大阪の於いて盛大に開催。本部新井庸弘会長、連盟辻井元会長他来賓30名を迎える。

2009年

６月　第30回関西実業団研修会開催。本部の川島一浩先生には７年連続でご指導を賜り、この年は初めて神戸連合会と合同で開催。参加拳士130名。

８月　関西実業団連盟夏合宿を滋賀県立武道館にて開催。約10数年振りに関西実業団連盟として計画。小林哲也会長には講演をして頂き、峠先生には法話、小笠原先生には技術指導を頂いた。

2010年

２月　連盟役員改選

理事長　　坂田文郎（大阪府庁部長）第１期

副理事長　春野勝義（住友金属和歌山部長）第１期

事務局長　今井常弘（大阪市役所部長）第１期

５月　平城遷都1300年祭、 3000人の少林寺拳法の演武に参加（関西実業団連盟から55名参加）



支部紹介

関西実業団少林寺拳法連盟





西宮市役所
小西 政直

素朴な気持ちで少林寺拳法をやっている人の魅力により、寄り集まってきた集団が、数十年続いてきたことは、今までに連盟にかかわってくれた方々全員に感謝を申し上げます。今後も自然体で日々を歩んでいければと思っています。



宇治市役所
辻村 公伸

2009(平成21)年４月より３代目部長として委嘱され、さらに2010年は関西実業団連盟の第33回大会実行委員長の指名を受け、その重責を果たすべく、自己研鑽に励み、継続発展に努めます。



大阪府庁
坂田 文郎

大阪府庁少林寺拳法部は、今年で創部37年を迎えます。
自らの可能性を信じ、開祖の志を実現に繋げていけるよう、努力をしてまいりたいと思います。



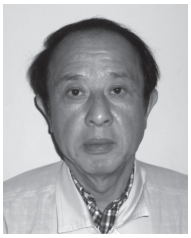
兵庫県庁
濱田 憲正

創部37年(正認33年)目、県民に奉仕する職域であり、少林寺拳法の基本である「自信と勇気と行動力と思いやりを持つ豊かな人づくり」が、大変役立ちます。
今後も「継続は力なり」の信念を持ち部員と共に楽しむ少林寺拳法を推進します。



JR西日本京都
岡本 俊二

現在、JR ６社の内、３社(北海道・四国・西日本)で年１回持ち廻り合同練習交流会を行なっているが、残３社に支部設立の声を掛け、JR大会開催出来る様にアピールし、部員確保に邁進している。



茨木市役所
根岸 幸正

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年を心よりお祝い申し上げます。当部も少林寺拳法で培ってきた『思い』を大切に、地域に根ざした貢献活動を拳士と一丸となって、今後も実践してまいりたいと決意を新たにしております。



神戸市役所
村木 直彦

最近、新規採用職員も増えているので、職員向けの少林寺拳法教室の開催等により、新入部員を増やし、関西実業団大会に積極的に参加していきたい。



大阪市役所
今井 常弘

大阪市役所少林寺拳法部は、昨年設立20周年を迎えました。社会におけるリーダーを育成する「人づくりの行」に共鳴した仲間とともに、実業団の拳士であることに誇りを持って、厳しくも楽しく修行しています。



大阪府警察
少林寺拳法会
後藤 幸夫

実業団支部こそ自力衆の少林寺、北少林義和門拳。
今こそ原点に戻る、開祖の教義を守れ。



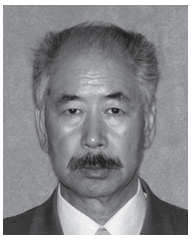
奈良県警察
須川 良平

40周年おめでとうございます。今年４月に初代川合部長より引き継ぎ運営する事となりました。設立して日の浅い部ですが、長く運営出来る様頑張っていきます。



東大阪市役所
深見 邦夫

当クラブは「継続は力」をモットーに活動を行っていますが、ややマンネリ化している現状を若い力の加入により活性化を図って参りたい。



三菱伊丹
大西 宏之

「現代は、楽しむことは多くあるが、よろこびの少ない世の中である」と、誰かが言っておられた。確かに文化の発達とともに楽しむということは充分できる昨今であるが、所詮は刹那的な快楽であり、本当のよろこびにはつながってはいない。少林寺拳法を通じて人生の本当のよろこびに気づかせ、社会貢献のできる人に育ててゆきたい。



神戸製鋼神戸
藤原 一成

当部は“「自他共栄」の幸福運動を、まず自己の職場から着実に展開させる”ことをモットーに活動して来ました。今後も同志、関係各位の支援を得ながら、共に邁進して行く覚悟ですので宜しくお願い致します。



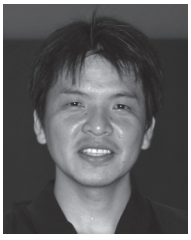
東芝姫路
山内 一男

『自己の可能性を発見し、自分なりの目標を立て、その達成のために努力をする』ということを日々の指導方針として少年拳士の健全育成を中心に活動をしています。楽しく継続できる少林寺拳法を目指して拳士一同、修練に励んでいきます。



住友金属和歌山
春野 勝義

住金和歌山も設立40年を迎えましたが、支えてくれた方々に感謝し、今後もこの道の素晴らしさを一人でも多く伝えるべく、永続して行きたいと思っています。



島津製作所
高濱 公大

島津製作所少林寺拳法部は今年創部４年目を迎えますが、様々な苦難の中で40年以上も団体の発展に努めてこられた諸先輩方には改めて頭の下がる思いです。今後も仲間を増やし少林寺拳法の魅力を伝えていけるよう頑張りたいと思います。



松下茨木
中野 幸一

職場・社会から期待される人材の育成。みんな「光る原石」の可能性を持っている。「変える」「変わる」ためには、継続した努力が必要である。理解と現実のギャップの穴埋めは実行のみである。



神戸製鋼加古川
池奥 敏秋

２代目の部長を交代してから18年、当初、10年位で交代しようと思っていたのが８年も過ぎた、引き継ぐ拳士がいないのが現状である。今はもう頑張るしかないと言う心境です。



2004年撮影

川崎重工神戸
大西 文雄

支部構成員の減少と、会社の業務の都合で、部長を含め長期海外出張が多く、支部の運営に四苦八苦しておりますが、継続して研鑽を続行していく所存であります。



阪神百貨店
炬口 孝一

40年前の企業内の少林寺拳法と現在の背景は様変わりしています。この厳しい状況だからこそ少林寺拳法の教えが必要だと考えます。益々、精進して参ります。



近畿日本鉄道
室 光

昨今の厳しい経済状況の中だからこそ、少林寺拳法を通じて心身を鍛えて強靭な自己の確立を目指し、会社発展の一翼を担えるような人材として、また豊かな社会を形成するための中心的存在となるよう精進したいと思っています。



ANA 大阪
床櫻 一成

会社内での部の運営は拳士の確保等、多くの困難がありますが少しでも少林寺拳法の発展に貢献できるよう今後も努力してまいります。

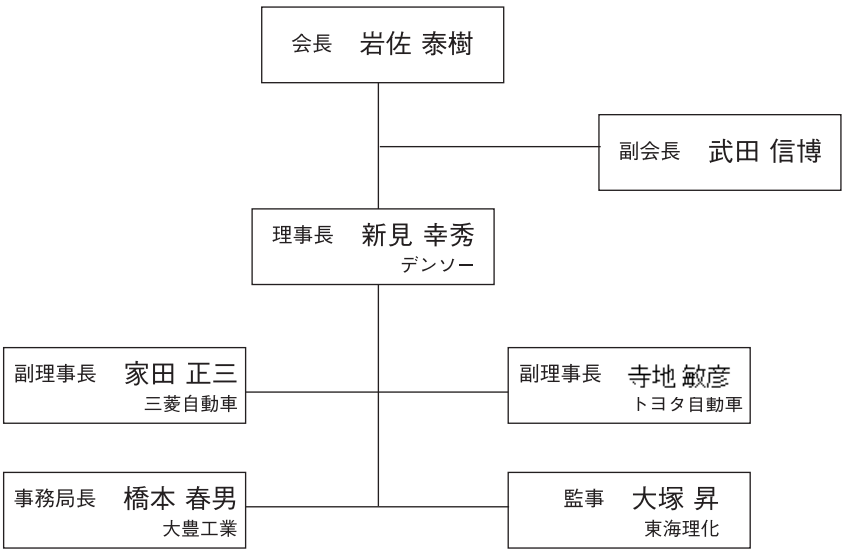


チッソ守山
橋本 仁和
（部長代務）

我々、チッソ守山少林寺拳法部は部員全員が少林寺拳法未経験の集まりでありますが前部長の言葉である『日進月歩、亀の歩みでぼちぼちと』を心の言葉に日々稽古に励んでいます。昨日よりも今日、今日より明日、精進！少林寺拳法！！

東海実業団少林寺拳法連盟

2010年役員組織図



歴代会長／理事長一覧

【会　長】

初　代（1976年４月～1983年３月）	平野 史	元日本電装㈱（現㈱デンソー）取締役副社長
第２代（1983年４月～1996年３月）	大岩 孝夫	元㈱東海理化電機製作所取締役社長
第３代（1996年４月～1997年６月）	山口 寛之	元日本電装㈱（現㈱デンソー）取締役
第４代（1997年７月～1999年８月）	藤原 敏成	元日本電装㈱（現㈱デンソー）常務取締役
第５代（2008年４月～現在に至る）	岩佐 泰樹	現㈱東海理化販売取締役社長

【理事長】

初　代（1976年４月～1981年３月）	山下 咲雄	元トヨタ自動車支部部長 現愛知高上支部支部長
第２代（1981年４月～1999年８月）	進藤 勝則	元デンソー支部部長 現刈谷中部支部支部長
第３代（1999年９月～2005年３月）	岩佐 泰樹	元東海理化支部部長 現東海実業団連盟会長
第４代（2005年４月～現在に至る）	新見 幸秀	現デンソー支部部長

ご挨拶



㈱東海理化販売取締役社長
東海実業団少林寺拳法連盟第３代理事長
東海実業団少林寺拳法連盟
会長　岩佐 泰樹

始めに全日本実業団連盟の設立40周年をお祝いするとともに、30年に亘り東海実業団の１支部長に始まり理事・理事長・会長を務めさせて戴き、少林寺拳法の地域での発展に微力ながら関わることができたことに感謝申し上げたいと存じます。

全日本実業団連盟は高度経済成長の絶頂期に設立され、石油危機以降の安定成長期～バブル崩壊の1991年まで順調に発展して、それぞれの企業・団体での大きな役割を果たしてきました。そして企業の海外進出の戦士として活躍した実業団の拳士は世界規模での少林寺拳法の発展にも貢献してきました。

しかし、「失われた10年」という形容に代表されるように、経済至上主義の価値観は依然として日本を覆い続け、実業団支部の運営を始めその在り方にも少なからず影を落としてきました。そして100年に一度の経済危機に陥った今日、日本は政治的にも経済的にも混迷を深めています。

こうした中、少林寺拳法の自他共楽の教えを携えた実業団の拳士が企業・団体内で地域で明治維新以来の第二の維新を興してくれることを期待しています。精神的支柱となる開祖の教えは今も色褪せることなく、それどころか益々必要とされてきていると言えましょう。自信と勇気に満ちた実業団拳士による行動力が求められています。

今日、全世界がボーダーレスの時代といわれています。それは飽くまで経済の世界の話であって、インターナショナルであるにはローカルを常に意識しなくてはなりません。それは個性的であることを意味しています。私たちは日本人であり職域の団体に所属している少林寺拳法の拳士であります。次の50周年、100周年に向けて実業団として、個性的でインパクトのある活動を期待しているところであり、行動を共にして行きたいとも思っています。

全日本実業団連盟の益々の発展を祈念して、40周年記念誌発刊に当たってのご挨拶とします。

合掌

今すぐ行動で示そう



東海実業団少林寺拳法連盟
理事長　新見幸秀

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年を迎え、新たな出発に想いを馳せております。

私ども実業団連盟の活動目的は言うまでもなく、企業の中で少林寺拳法を接点にした「人づくり」であり、行動力と実行力をもって周りのものを惹きこむ魅力とグローバル感をもったリーダーを一人でも多く社会に輩出することです。

企業における人材育成は、グローバル競争の環境下では手段的な教育になりがちですが、今の時代を生き抜いて企業が社会に貢献し続けるためには「人、人、人、すべては人の質にある」との想いを最近益々強めております。

特に、少林寺拳法が目指す人づくりの道は企業にとってもかけがえのない教育であり、少林寺拳法を長く続けることにより、必ずや職域・地域でリーダーたる素養を見につけていくことができると確信しています。

しかしながら、近年の社会構造の変化に伴う人々の価値観や行動様式の変化を背景として、企業内クラブ活動の低迷が続いています。が、一方で生活における時間的・経済的ゆとりと関連して、自発的・自主的に生活の中でスポーツや武道を楽しむ雰囲気が社会現象として出てきています。人々の健康確保と豊かな生の充実感を満たすために、生活の中にスポーツや武道を生涯にわたって位置づけることが大切な時代なのです。

少林寺拳法はその成人ニーズに十分応えられるだけのパフォーマンスを持っていると思いますが、職場を中心とした企業内クラブ活動の中では、活躍の場が限られる時代になっているように感じています。

地域という生活集団を基盤とした生涯学習・生涯スポーツと企業活動を上手く連携させて、我々実業団連盟の拳士が地域社会と一体になった「みんなの少林寺拳法」をキャッチプレーズにして、競技武道ではない少林寺拳法の良さをアピールして普及させていきたいと思います。

最後に、設立40周年記念誌の編集にご尽力されました関係各位に、厚く御礼申し上げご挨拶といたします。



すばらしい教えをこれからも

初代理事長　山下咲雄

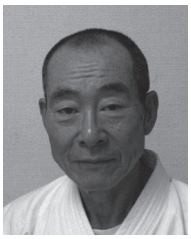
愛知県で最初の実業団支部であるトヨタ自動車支部を創設し10年近くが経過したころであろうか。1975年に名古屋市で実業団連盟全国大会が開催されることが決まり、微力ながら大会実行委員長を仰せつかることとなった。その実現に向けて四苦八苦したことが私の印象深い思い出の一つとなっている。

多くの支部長と協力し実現に向けて動き出したが、中でも運営費用の工面で苦労した。それに関する思い出深いエピソードがある。

当時全国実業団連盟の会長をされていたのが参議院議員の藤川一秋先生。愛知県庁出身の立志伝中の方である。先生に協力をお願いしようと、当時日本電装支部(現デンソー支部)を率いていた進藤勝則支部長(現刈谷中部支部長)と共に東京の議員会館を訪ねた。先生は私たちの説明を聞く間もなく「しっかりやれ」とすぐに全費用を工面していただいたのである。これには二人ともぶったまげた。なんという気風の良さ、男気。でもそれは金剛禅少林寺の素晴らしさをご理解いただいていたからこそなのであろうと思う。先生のおかげで運営の目途が立ち、必ず大会を成功させて藤川先生のご恩に報いようと、大会を盛り上げるために進藤支部長と共に各支部へ拳士の動員を呼び掛け、その結果大会当日はたいへん盛り上がった。いろいろな協力あっての大会成功はなんとも嬉しい出来事であった。

この大会に関連するもう一つの思い出。私が率いるトヨタ自動車支部も多くの拳士が出場したのだが、入賞者に誰ひとりとして名があがらなかった。名があがるのは進藤支部長の日本電装支部ばかり。トヨタ自動車支部の顧問であった同社の竹田一男氏から「ウチも出てるんだろう？」と問われ、何も言うことができなかったのはなんともつらかった。大会実行委員長なるもので満足していなかっただろうか、自分の支部の拳士諸君と共に少林寺拳法の意義をしっかり理解し発展させようとしていたのだろうか……。

人の情、そして共に生きる価値。私はこの大会で貴重な経験をさせてもらったと思っている。今の私があるのも、開祖との出会いはもちろん、この時の出来事が契機となったことは確かである。今でも金剛禅少林寺に精進するのは、自分を育ててくれた教えであり、人との関わりの大切さ、またそのことが楽しいと本心から言えるからである。この素晴らしい教えをいつまでも大切に伝えていきたい。



若き拳士の皆様方に

第２代理事長　進藤勝則

全日本実業団連盟創立40周年誠におめでとうございます。連盟設立にご尽力された松木長實先生を始め、これまで連盟の運営、発展にご尽力された関係者各位に心から敬意を表します。

私自身、1969年、22歳で日本電装(現デンソー)に少林寺拳法部を設立し全身全霊を以って部の運営に努力してきました。当時は少林寺拳法を知る人は無く格闘技の一派程度の理解しかありませんでしたので、会社から許可を得るまでに随分苦労したものです。

また1975年には第２回全国実業団大会を愛知県体育館にて開催しました。トヨタ自動車支部の山下先生(後に初代東海実業団連盟理事長)を始め大会運営の経験が全く無い若者達が手探り状態で準備を進めたものです、そんな時も当時全日本実業団連盟理事長の松木先生から激励やご指導を頂いたことは忘れることはできません。そして大会が大成功裏に終了した後に、大会運営に携わった10数名の若い指導者達によって東海実業団連盟が設立されました。今振り返ってみれば、実に情熱や行動力や信念に支えられた燃える若者達の集団であったと思います。

退職した今、 40年程前の当時を振り返って私の会社生活は、少林寺拳法のおかげで実に充実し有意義なものであったことを感慨深く思うものです。

現在、実業団支部で修行する若き拳士の皆様方には今後益々の精進を期待するものであります。少林寺拳法の基本理念である「人、人、人、……すべては人の質にある」、このことは人が生き続ける限り変わることのない哲理でしょうし、またその基本的な行動指針である「自己確立」「自他共楽」も人が生きる普遍の道標であることは間違いのないことです。これからも新しい時代の流れの中で、この開祖宗道臣先生の教えを道しるべとして一歩一歩着実に前進されますことを拳士各位にお願いしまして、お祝いの言葉とさせていただきます。

東海実業団連盟のあゆみ

1974年

４月　名古屋での第２回実業団連盟全国大会の開催準備を契機に東海実業団連盟結成の話し合いを開始

1975年

10月　第２回実業団連盟全国大会開催（於：愛知県体育館 ）。藤川一秋（トピー工業㈱取締役会長（当時））を大会長に迎え１万人の観衆の中、盛大に挙行。

1976年

４月　全国大会の来賓としてこられた日本電装㈱（現㈱デンソー）の平野史取締役副社長（当時）に東海実業団連盟会長をお願いし、東海実業団連盟として設立登録を申請。 1976年度東海実業団連盟役員選出

会　　長：平野史（日本電装㈱取締役副社長）
顧　　問：冨山紫峰（研誠社㈱取締役社長）
理 事 長：山下咲雄（トヨタ自動車支部長）
副理事長：進藤勝則（日本電装支部長）
事務局長：進藤勝則（日本電装支部長）

加盟支部15支部にて正式に発足

1981年

４月　1981年度東海実業団連盟役員選出。

会　　長：平野 史（日本電装㈱取締役副社長）
顧　　問：冨山紫峰（研誠社㈱取締役社長）
理 事 長：進藤勝則（日本電装支部長）
副理事長：佐藤恒男（本田技研鈴鹿支部長）
事務局長：佐藤恒男（本田技研鈴鹿支部長）

12月　愛知県連盟西三河地区の懇親会にて東海実業団大会開催の気運が盛り上がり、大会開催の準備に着手。

1982年

９月　第１回東海実業団大会開催。

於：日本電装㈱（現㈱デンソー）本社体育館
大会長：平野史（日本電装㈱取締役副社長（当時））
参　加：11支部、約500名

1983年

３月　連盟会長を㈱東海理化電機製作所大岩孝夫取締役社長（当時）に要請。快諾を得て、平野史会長は名誉会長に就任。

1991年

11月　奈良県での全国大会にて東海実業団連盟として、チャリティーバザーを企画、宗由貴会長のご協力も頂き、全国拳士の参加を得て運営。収益金は、実行委員会を通じて奈良県の福祉協議会へ寄贈。

1999年

９月　臨時総会を開催（進藤理事長の突然の辞任に伴う）。1999年度東海実業団連盟役員選出。（役職は当時）

副 会 長：武田信博
　　（㈱東海理化電機製作所常務取締役）
顧　　問：天野博臣
　　（日本電装㈱（現㈱デンソー）常勤監査役）
理 事 長：岩佐泰樹（東海理化支部長）
副理事長：家田正三（三菱自工支部長）
事務局長：橋本春男（大豊工業支部長）

2003年

６月　2003年度東海実業団「整法講習会開催」。トヨタ「つどいの丘研修センター」において、熱田道院の高倉先生を講師にお招きし、約50名が参加して、実技を主体とした整法技術を学習体験。

2005年

４月　2005年度東海実業団連盟役員（役職は当時）

理 会 長：武田信博
　　（㈱東海理化電機製作所常勤監査役）
顧　　問：岩佐泰樹（㈱東海理化販売専務取締役）
理 事 長：新見幸秀（デンソー支部長）
副理事長：家田正三（三菱自工支部長）
副理事長：寺地敏彦（トヨタ自動車支部長）
事務局長：橋本春男（大豊工業支部長）

2006年

12月　トヨタ「つどいの丘研修センター」において、東海実業団連盟として、本部技術指導本部長、川島先生をお招きし、技術研修会を開催。

2007年

11月　2007年11月少林寺拳法創始60周年記念東海実業団大会開催。㈱デンソー幸田製作所にてチャリティバザーも同時開催

＜運営委員＞
新見幸秀（デンソー支部長）
家田正三（三菱自工支部長）
寺地敏彦（トヨタ自動車支部長）
橋本春男（大豊工業支部長）
大塚昇（東海理化支部長）

少林寺拳法創始60周年記念　感謝状・功労表彰

＜感謝状＞
大岩孝夫（元理事長）
武田信博（現副理事長）
＜功労表彰＞
進藤勝則（元理事長）
岩佐泰樹（現会長）
家田正三（現三菱自工支部長）



支部紹介

東海実業団少林寺拳法連盟





トヨタ自動車
寺地 敏彦

私たちを取り巻く環境もますます厳しさを増しておりますが、職域における少林寺拳法の存在も重要性を増している今日です。40周年を迎え、あらためて、今、何をしなければならないか考える節目の年としたいと思います。



デンソー
新見 幸秀

行動力と実行力をもって、地域社会を惹きこむ活動を展開して、少林寺拳法の良さをアピールして普及させて行きましょう。信念をもって行動しましょう。



東海理化
大塚 昇

今年、我が部も継続30年を迎えることができました。
現在、現役拳士が５名とさびしい状況ですが、会社の元気の源として、頑張っていきたいと思います。



三菱自工
家田 正三

これからの中高年＆高齢者でも楽しく健康増進と精神的な強さを保てる活動を実施していきたい。魅力のある少林寺拳法であるには、私たちでできることはもっと多くの仲間作り用ネットワークを作ることです。



大豊工業
橋本 春男

現代の複雑なる情報化社会においても、それを処理し活用していくのは人間です。これからの社会に必要とされる正しい人間形成こそ、少林寺拳法の存在価値があるのではないでしょうか。40周年を機会に原点に立ち返り更に精進を重ねたいと思います。

辻新滋（川鉄千葉・現JFE千葉）

全日本実業団少林寺拳法連盟40周年おめでとうございます。現在道院長として少林寺拳法を続けられているのは、実業団支部を経験させて貰ったからと言っても過言ではありません。前部長から引き継いで、必死になって技を覚えようとした事が、昨日のように思い出されます。50周年へのスタートとして微力ながら応援して行きます。

馬場義人（防衛庁）

40周年おめでとうございます。開催に向けてご尽力された方々に敬意を表します。縦社会の会社組織の中にありながら、実業団連盟を通じ横のつながりを拡げようと努力されている皆様に声援を送りたいと思います。

湊孝夫（八重洲無線）

全日本実業団連盟設立40周年誠におめでとうございます。現在、私は古巣である東京品川道院の一拳士として少林寺拳法の修行をさせて頂いております。

今から20年前になるのでしょうか、関東実業団連盟の20周年記念の際に、大会実行委員長と言う大役を命じられ、未熟ながらも各支部の先生方や諸先輩の皆様に支えられ、何とか無事に終える事が出来たと言う、大変貴重な経験をさせて頂いた一人でございます。又、その時ほど実業団連盟の拳士同士の結束と、組織力を感じた事はありませんでした。

月日が経つのも早いもので、あれから20年が経ち40周年を迎える事が出来ますのも、現在実業団支部でご活躍されておられる皆様方のお力添えと、行動力の賜物だと大変感謝をしておる次第であります。又、私自身皆様方と共に40周年を迎えることが出来ます事を、心から喜んでおります。是非ともこの全日本実業団設立40周年記念祭が素晴らしい祭典になります事を、心から願っております。

大河原敦子（ニチレイ）

和気あいあいとした実業団連盟は心の故郷であり、一つの理想境です。今後益々のご発展をお祈りいたします。

森久雄（東電）

関東実業団少林寺拳法連盟40周年記念誠におめでとうございます。我が道院の前身は実業団支部にあります。今後益々のご発展をご祈念申し上げます。

難波克在（中央魚類）

合掌　私が内山滋先生に弟子入りしたのは、46年前の19歳でした。当時は、多度津の旧道場で開祖宗道臣管長より技を習ったり、法話を聞いたりすることがありました。管長はよく「自己確立」「自他共楽」の教えを説いておられました。この教えは、今でも私の心の中に生きています。また、40年前の実業団連盟設立に、松木先生を始め、他の同志の方々と参画できたことを、昨日のように懐かしく、誇りに思っております。実業団連盟のさらなる発展を期待しております。

渡辺和夫（富士重工三鷹）

若かりし、成長期の時代、燃えて行動したことが、ついこの間のように思い出します。職域という様々な制約の中、大変ですが仲間づくりによる人づくり、共に頑張っていきましょう。

佐野潔（電々中央）

合掌　実業団連盟設立40周年を迎えおめでとうございます。少林寺拳法との出会い、開祖との出会いから今日に至る間、私も40年と月日が経ってしまいました。現役拳士として子供達、仲間達と生涯学習のつもりで行動しております。

開祖の言葉、行動力、考え方にほれ込み、拳禅一如を理解しようと修養してまいりました。健康第一である事をつくづく感じられる年になってしまいましたが、苦しい時に苦しむのは自分だし、悩む時に悩むのも自分だし、最後の拠り所は自分でしかない。だから自分というものを最小限度大切にし、他人のことを考える人になりなさい。

他の人々に、影響を与えられる指導者になりなさい。会社の中で自信と勇気を持って指導的役割を持つ人になるよう、さらに一歩前進してみようではありませんか。頑張ろう。結手

鈴木文彦（富士ゼロックス）

合掌。今から約25年前に、協会で富士ゼロックス支部・部長として挨拶した内容で、人生は児童期：青年期：壮年期：老年期があります。自然界にも春夏秋冬があり、四季にはそれぞれの美しい味わいを現わしている。青年期頃の勢いが懐かしく感じる候う。

小川直哉（千葉市役所）

連盟設立40周年を迎えましたこと、心よりお慶び申し上げます。私は20代後半で千葉市役所支部を設立、４年前に定年となりましたが、道院で頑張っております。実業団連盟の益々の発展を祈念しております。

森川一弘（トッパンムーア）

実業団連盟設立40周年という記念の年にOB会の一員として参画できることに感謝しています。これからも社会における少林寺拳法の中核として実業団連盟の活躍に期待しています。

加多駄三雄（サンリオ）

実業団連盟設立40周年おめでとうございます。昨年よりOB会も発足し、また皆様と交流の機会を得たことは、私の大きな喜びです。今後も実業団連盟が益々繁栄せんことを祈っております。

谷田川正（住金鹿嶋）

合掌　関東実業団連盟設立40周年記念大会のご成功を心からお祝い申し上げます。住金鹿島支部で育った数名の拳士が道院長、支部長として茨城県連で活躍しています。また、1980年日本武道館で行われた全国大会実業団の部で最優秀賞をいただいたことは忘れられない思い出となりました。そして、関東実業団連盟は当支部育ての親だと感謝の心を忘れることはできません。結手

渡来士郎（松戸市役所）

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年誠におめでとうございます。様々な職域で活動する実業団支部は貴重な存在です。今後とも横の連携を大切に豊かな社会の実現に向かってご活躍ください。

片岡三郎（八王子市役所）

私は、93年の支部設立から支部長交替の97年までの５年間というわずかな期間でしたが、関東実業団連盟の武田理事長、石井、工藤両先生をはじめとする役員の方々のご指導をいただきました。大会や皇居一周マラソンなどは親子で参加させていただきました。その間の人と人のつながりが、今日に活かされていると実感し感謝しております。まさに人、人、人……少林寺拳法は、50年、100年と永遠に続くものと確信しております。

佐々木政人（航空入間）

合掌。全国実業団少林寺拳法連盟が設立40周年を迎えられるにあたり、関係者のご努力に敬意を表しますと共に、心よりお慶び申し上げます。私は航空入間支部５代目支部長を務めました佐々木政人と申します。関東実業団大会等に参加させて頂いた事で、実業団の先生方や拳士の皆様と交流が持てた事は、今でも財産となっております。厳しい社会環境下で部を続けることや部員を増やすことは難しい昨今と推察致しますが、理事長を軸に拳士の皆様が更に団結され、今後、貴連盟が益々発展されますことをお祈り申し上げます。結手

折本要（川鉄千葉・現JFE千葉）

全日本実業団少林寺拳法連盟設立40周年、お祝い申し上げます。一言で40周年と申しましても平坦な道ではなかったと思います。会社組織の中で活動するにも障害があったのではないでしょうか。人づくりの行としての思いが拳士の中にあったからこそ40年という歴史を培ってこれたと思います。これからも精進してこの道を歩み続けて下さい。

小野寺米蔵（三鷹市役所）

連盟の"ねんりん40"おめでとうございます。日比谷公会堂での実業団大会で開祖と中国の李連慶参事官を真近かに拝顔、強烈な印象。「職域で幸福運動の尖兵になれ！」志に感謝。

九鬼健次（国立印刷局）

1980年に支部を設立して、部廃止まで28年間部員相互の団結力をもって活動してきました。今は少林寺拳法の教えを生かし、ボランティア活動に励んでいます。実業団拳士の絆を深め、益々の発展を祈念致します。

久保田博志（東京中央区役所）

王道を歩む実業団連盟を、行動のチャンスとタイミングを「天」、社会のニーズを基礎とすることを「地」、全国の職域拳士の創意・誠意・熱意を「人」とし、字に表わすなら、「三」。これに縦の中心軸（方針と財政）が加わり、天・地・人を貫くと「王」となる。それを粛々と実践するのが「王道」。実業団連盟は王道の伝統に沿ってさらに未来へ歩まれんことを！

小山一義（宇治市役所）

全日本実業団少林寺拳法連盟が設立40周年を迎えましたことは、共にその道を歩んできた私達にとりまして、大変喜ばしいことであり心よりお祝いを申し上げます。

私は今年定年となり部長は後輩に託しまして（引き続き部員として参座及び協力）、関西実業団ＯＢ会に入会しました。ＯＢ会は元役員の先生や支部の幹部クラスや貢献して頂いた皆さんも含め、より多くの縁のある皆さんの絆を大切に拡大していこうという集まりです。

主だった事業は、関西実業団連盟の大会への援助やその他の各種連盟事業への参加と協力ですが、高齢化社会の中、今後参加者が増大することは間違いありませんので、本部事業への取り組みも視野に入れた活動を展開したいと思っています。

峠徹（丸増：現京都京極道院長）

関西実業団に25年間お世話になりました。好不況にかかわらず常に劣悪な人間関係を醸し出す企業人の体質改善に、支部を作って敢然と挑戦しましたが、余りにも自分が未熟過ぎた為、厚い人間の壁に跳ね返されました。最後は悄然として会社を去りましたが、人間の生き方には引退はなく、すぐに縁あったカルチャー教室を数年続けて道院を設立、現在は子供達の健全育成に全生をささげています。

25年間の実業団時代は、連盟役員である財界の素晴らしい諸先生から、絶え間ない薫陶を受け、また同志と真剣に大会や研修で切磋琢磨することが出来ましたので、それにより得られた何にも代え難い経験が、現在の自分の実践活動に役立っています。小生にとって実業団は、永遠に止むことのない青春という名の風の吹き続けている故郷です。

福田つよし（松下コンデンサ）

設立40周年、長きにわたり着実に継続していくのを目のあたりにして感無量の思いが致します。拳士諸氏が日々の職務を終えてから寸暇をさいて修行に励み、自己確立を図りながらの幸福運動の実践は限りなき力強さを感じます。今後も職域において益々の発展と飛躍を願うものであります。

谷崎賢二（近畿日本鉄道）

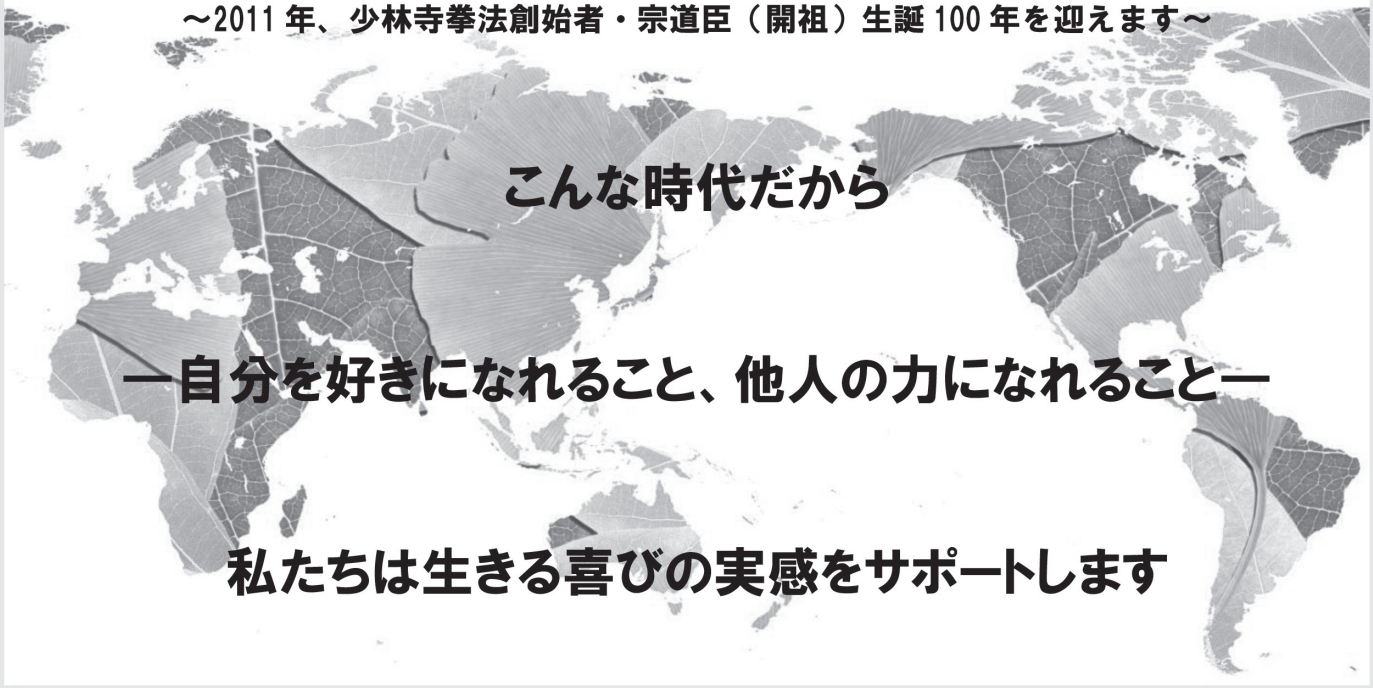
全日本実業団連盟設立40周年おめでとうございます。現代社会において、実業団を取り巻く環境は年々その厳しさを増してきているように思います。

企業は所在する地域社会のなかで、企業活動を営み発展を遂げていきますが、実業団の存立は企業の繁栄、発展におおきく左右されると言っても過言ではありません。今まさに先行き不透明な時代のなかで、実業団が掲げる『職場における真の幸福運動のリーダー』とは、自己の幸せ、他人の幸せ以外に、会社が置かれた環境、状況といったことにも目配りできる指導者を指すのではないでしょうか。

企業で働く拳士の皆さんが、幸福運動の尖兵となって汗を流し、少林寺拳法の拡大と発展に地道に努力を重ねていくことこそ、全日本実業団連盟の益々の地盤強化につながる実践活動そのものと考えます。


SHORINJIKEMPO
見つけてほしい
あなたの可能性を
© SHORINJI KEMPO UNITY

～2011 年、少林寺拳法創始者・宗道臣（開祖）生誕 100 年を迎えます～



こんな時代だから

―自分を好きになれること、他人の力になれること―

私たちは生きる喜びの実感をサポートします

「世界で一つの少林寺拳法」を守り続けるために
SHORINJI KEMPO UNITY は知財管理・ライセンス・広報の各種事業を行っています。

出版物の案内



【少林寺拳法解体新書 DVD】

少林寺拳法、その価値とは

◆創始者宗道臣が映像で迫る
◆宗由貴総裁が語りかける
◆鈴木前代表による法話研究
◆山崎校長による法形研究
◆新井会長による演武研究
計３６０分の映像を収録！

予　告

決定版
少林寺拳法
（仮題）

2010 年秋出版



【はじめよう！少林寺拳法】

初心者の補助教材に

◆やさしい言葉で
理解する
◆連続写真で確かめる



〈少林寺拳法達人伝説〉



〈少林寺拳法の世界〉

ヨーロッパ地区における少林寺拳法を紹介。

※これらの出版物は財団法人少林寺拳法連盟事業部にて取り扱っております。

ロイヤリティー収入は、少林寺拳法の知的財産保護や広報・普及活動に活用（還元）し、
少林寺拳法の指導者・拳士の皆さまの日々の活動を護り、支援しています。

少林寺拳法グループ公式ウェブサイト　www.shorinjikempo.or.jp

編集後記

先輩諸氏の笑顔がまぶしい。右の写真は今年５月に開催された全国の実業団部長懇親会の１シーン。日頃遠隔地でなかなか会えない者同士だが、設立40周年となる2010年ということもあり、全国の実業団部長の先生方で連絡をとりあい、部長研修会を利用して懇親会が開催された。

一言で言えばオヤジ達の宴会写真なのだが、どの顔も味がある。企業や役所という職域環境の中で、人並み以上に仕事をこなしながら、そこに少林寺拳法の集団を築き、リードしてきた人ばかりだ。その顔には苦労と喜びと自負とが刻まれていて、こんなにまぶしい顔を見ていると、こちらまで楽しくなってくる。

どの先生方も例外なく開祖に惚れ、志を引き継いできた方々である。

開祖の志は、まるで生物のDNAのようでもある。脈々と受け継がれ引き継がれて次の代へとつながっていく。そんな鎖に出会えたことを私自身嬉しく思う。だから感謝の気持ちを表すために、職域で開祖の志を伝えてきたあらはん達40年の歴史を編纂してみようと決心した。

日頃実業団連盟を応援して下さっている方、あるいは拳士が活動できるよう笑顔で見送ってくれるご家族の方、現役拳士はもちろんのこと、10年後、20年後の実業団拳士の皆さんがこの記念誌を開くたびに、そしてもし開祖が今もご存命で、この記念誌を手に取ることがあったとして、「みんな、頑張っているな」と思っていただければ光栄である。

秘蔵の裏話をお聞かせいただいたOBや先輩諸氏、快く情報提供していただいた全国の部長や拳士、膨大な資料の整理に携わってくださった実行委員、そしてプロのDTP技術をボランティアでおしみなく提供してくれた拳士、開祖のDNAを受け継ぐ細胞の一つひとつが協力してこの記念誌が完成したと言える。私も細胞のひとつして、これからも開祖の志を引き継ぎ、日々の生活の中で実践するとともに、次代へと引き継いでいきたいと思う。

「志を引き継ぐ」

関東実業団少林寺拳法連盟理事　山下明人（日本IBM）



40年の歴史を築いてきた
先輩方、支えてくれた皆様
……そして、開祖に捧ぐ

SHORINJIKEMPO

2010年10月9日
発行：全日本実業団少林寺拳法連盟
制作：Studio MOTHER-BASE